第四百三十六號目次

社説

本願寺改革論を評す

女學

孤女學院名稱を改む◎女學研究會の創立を望む◎假粧の家庭に及ぼす感化◎作文の教授
女子教育振起の現象◎東京下宿社會の一瞥（布川靜淵）

教育

朝鮮國の教育　京城學堂報告◎朝鮮國に於ける英米佛教育傳道事業一斑◎朝鮮官立學校概況

評論

小說家を論ず　隱村子

雜錄

巖本嘉志子君の緣に告ぐ　湯谷磋一郎
輓詩一首（中島邸子）◎姑評保品（姑は不從の際に在り◎實は從順の媳）曲洲子◎片々錄（一）如雲

時文

小說破明松（上）　紫琴女史
感化事業の發育◎花紅史◎近世文學史論◎教育
增◎寫眞器◎小猫◎新小說◎鬼り柿

片々◎時報

社告

●本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

●十日發行の分は稍や簡易實際を專らにし、第一、家庭の整理改善に益ある事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを措き、二十五日發行の分は、女界教界に對する吾黨多年の主義を發表するもの（單に十日發行の分のみを購求せんと願望せらるゝものあらば、其望に應すべし。

女學雜誌定價表

前金	一冊定價金拾錢（無郵稅）　一ヶ年前金　金貳圓
廣告料	一行一回（廿五字詰）前金十錢　同三回以上一割引　同六回以上二割引　但し不德義なる廣告は謝絶す。懇望の廣告は紙上無代價にて引受く
送金	爲替は東京小石川郵便局に宛て小爲替にすべし（郵便切手にて送る人は五厘切手にて且つ一割を添ゆべし
注文	注文は東京麹町區下六番町六番地女學雜誌社まで申越さるべし

第四百三十五號目次

口繪

迎護

御埋葬　カウルペッハ氏註

社説

御國教◎信心堅固なるべし

家庭

家庭の樂は小事より成る◎火鉢のほとり◎大望ある商人◎物價騰貴◎一家備付の天秤◎御馳走◎生計ノ度合◎山師◎失敗者に看護せよ◎女子手藝案内（二）（刺繡の利物二種）美よしの（さからぬひ◎さしぬひ◎星ぬひ◎糸ぬひ◎肉入ぬひ◎すがぬひ◎さしぬひ◎糊の事）
ひさい言（婦人の永生◎夫婦配合の紙質◎子供の前にて、子供を護る事）　紫琴女

文藝

小說家さ同箇（一葉全集を讀む）　隱村
和歌（池袋清風外數氏）

史傳

史料散錄（二）　如雲散士

問答

雖めぬ友の爲に問ふ、其答、

講義

最さ新附門馬夫人の新撰商）　山洲子

雜錄

村夫子
片々錄　さよ子

隨感

時文

迎護の圖に題す◎外六作

寄書

清少納言◎交際心得◎英武堂求◎少年詩話◎第二開の小說◎つり的◎間一髮◎佐伴◎彫像師◎

篤志者護の論功行賞　仿覗子

片々◎時報

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

菊池芳文　久保田金仙　神坂雪佳　竹内棲鳳
谷口香嶠　久保田米齋　三宅呉暁　都路華香　八先生畫寫

大葬圖鑑

本書石摺和裝極美本題字題歌挿畫貳拾余面横八寸五分縱六寸三分製本出來期限三月十日十册以上注文郵税不要爲替ハ京都郵便電信局

●定價一册六拾錢郵税六錢

●二月中豫約申込前金四拾五錢郵税六錢

●本書には高貴の方々の題字を卷首に揭け奉る

英照皇太后陛下の御大葬は實に是れ開闢以來の御儀式にして正に後世への摸範的曲禮なり本書は當代第一流の青年畫家豫め相計りて千載の後歴史的美術的資料の爲め。及道遠くして親しく葬儀を拜觀し奉り得ざりしもゝの爲め。且は拜し得たるものも永く紀念として公德を仰ぎ奉らん事の爲に。齋戒沐浴し謹寫し奉りたるものなれば。我が忠愛なる國民の必ず一本を具へ賜はらん事を希望す

京都市三條通富小路東南角

發兌書肆　便利堂

●切抜通信の要旨

●切抜通信をなすべき條目は農工業商政治法律外交貿易政黨倶樂部教育宗教歴史詩歌運輸交通土木建築礦業山林美術技藝各人身上に關する事等凡そ諸新聞紙上掲載の件は小欄廣告に至るまで其委托に應し精閲遺漏なく勉めて配達を迅速にして以て愛讀者の便益を期す

東京市京橋區釆女町廿一番地
東京通信社附屬
新聞切拔通信部

●切拔手數料大要

●一己身上に止まる通信は一ヶ月金貳拾錢とす●一事業又は一事物に止まる通信は壹ヶ月金參拾錢より金五拾錢まで●一會社又は一團體は全般に關する通信は壹ヶ月金五拾錢より金壹圓まで●前記の事項と雖とも關係の範圍廣く日々記事の多數なるものは臨機の契約を爲すこともあるべし●月數に拘らず件數にて委托せらるゝものは東京は十件に付金貳拾錢地方は郵税を併せ金參拾五錢とす尤も細事項は總て號外として件數に算入せず●本社切拔通信規則書御入用の方は御通知次第郵送すべし

明治女學校圖書寄附募集廣告

本年二月五日我校不慮の火災に類焼せし際、多年珍藏の書籍悉く灰燼に歸して、片影をだに留めざるに至れり。然るに我校は大方有志の同情いとも懇篤なるによりて、再築の計畫の着々として其途に有ると共に、學校組織中の甚だ重きをなせる知識の倉庫たる書籍館を再興且盛美ならしめんと欲すると切なり。幸に有志の既に、堅牢なる書籍庫の建築寄附を約せらるゝあり、之に充たさんは、五車の書尚ほ尠しとなすべし。由つて天下の仁人に訪ふ、冀くは之に盈て、之れを盛んにせんが爲めに、或は珍藏の美書を割愛せられ、或はまた高著の貝書を寄贈せられ、以て我校をして、永く其芳志を記せしめんことを

明治廿九年十一月

明治女學校圖書館掛　謹白

○和漢洋書類何種のものにても御寄附相願候

○御寄附なし被下候に於ては、地方にては、運賃立替御送附相願候然らば請取證差上げ申候際、御返濟可致候也

○また市内に候はゞ、第一報次第受取人差遣し可申候

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日本宗教界評論の評論

日本宗教

二月廿日刊
二卷 八號

要目

◎斯の大勢を如何せん……社説
◎本願寺改革論……社説
◎易話一則……高島呑象
◎佛教分布の觀察（統計的研究）……長井革堂
◎社會改良と今日の學者……希聲
◎談機片々……菅漾隱士
◎清國全權公使林董君の宗教談……訪問子
◎ドクトル小此木君の獨逸宗教談……同
◎基督教と幕末（基督教界の三派）……

口繪

天草變亂に於ける異教徒磔殺の圖（寫眞大版）

◎新座敷（耶佛調和的趣向）……
◎幼時の求佛……慈垢
◎田舍傳道師……留岡幸助
◎伊豆地方の信仰一斑……學水生
◎福島縣菊多地方信仰一斑……飯田一二
◎本年の宗教界●昨今の預想問題●宗教社界の監督●基督教界の昨今●佛教學と中學教育●東本願寺改革運動に對する基督教界の言論●現今の人は無思想也●宗教の調和と日本和魂●宗教的思想の變遷●傳道者の學問●雜誌界珍聞二則
●其他如例

（定價一冊八錢郵税五厘六冊前金四十八錢）

發行所 東京麴町區下六番町六番地 日本宗教社

芙蓉峯

第十一號
明治卅二年二月二十日發行

◎芙蓉の雪欄の謙遜の奥義及び二大議論は何れも山月子の靈筆◎晴夜の露●●吾人の希望（求明）●●恆の心（一天子）●●歸省雜記（一貫子）◎押川先生の說教●●婦人の爲めはシオンの月欄に掲ぐ◎春野の草我が勞働會員に寄す（山月子）●●松江月夜の夕（柳村子）發句（鏡梅）●●霜柱（冷露子）◎前山の霞●●熊澤蕃山●●平野國臣◎百花の園には一語にして万金の價を有する格言◎四邊の景●●茅屋の庭には勞働會內外の雜報を載す

每月一回廿日發行 一部金四錢（郵税五厘）半年分前金廿二錢（郵税三錢）一年分前金四十錢（郵税六錢）

發行所 仙臺市南六軒町勞働會內 芙蓉社

基督教新聞

定價郵税共 一部金三錢 三ヶ月金二十八錢 六ヶ月金七十三錢 一ヶ年金壹圓四錢

基督教新聞は基督教界に於ける最有力の新聞にして發兌以來十餘年今や愈々改良を加へ議論の區域を擴張し其の材料を精撰し時に內外諸名士の肖像を掲け以て大に讀者諸君の好意に報んとす趣味あり光彩あり其の議論は正經にして東西最進歩の輿論を代表し其雜報は內外の教勢を詳報す其外家庭欄說教欄皆な有益ならさるなし願くは教界內外の君幸に愛讀を賜へ

東京市本郷東竹町三十四番地 基督教新聞社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第四百三拾六號

明治三十年二月廿五日發兌

社説

本願寺改革論を評す

本願寺改革の叫びは火の枯草を燒く如く燃上り、忽ちにして天色を焦がし、火の粉を八方に散らせり。焰の舌、何處までを嘗めんとする乎、空を摩するの大伽藍それ危ふからざるを得る乎。

抑も、本願寺の改革を企てたるものは、去今一時の事をもて初となすにはあらず。然れど、今回の如く堂々として、陸續の大いに揚れるものは未だ曾てあらず。是れ一つには、弊害の鬱積いよ〳〵甚だしきと、時勢の助力宛ら恰好なりしとに由るとわらんと雖ども、主動者の信義、衆を合するに足り、其の赤誠、自から廣く透徹したるに由緣するは、明白なり。此をもて吾人は夙に其の精神に感じ、密かに其の獻性を多とす。但だ夫れ惜むらくは、方策未だ忠を悉くさず、手段の運爲に矛つて穩當を缺ぐの憾みありとし、夙に微言を呈して一顧を促せしに、炎焰益々熾り、破竹倒木の悲觀容易に止まず、彌よ互ひに激して、遂に相倒れんとす。加之、近日は、改革派の主動者若干人を罰し、其る僧籍を奪ふの所爲わり。惟ふに此れ一段の刺激にして、謬つては、火勢之より益々猛烈ならん歟。盖し、今や機一轉の時なり。吾人不肖と雖ども更に一言を寄せざるを得ず。

抑も彼の改革論者は、如何なる程度にだける改革を要望する乎。某新聞紙は彼の主動者をもてルーテルに比したり。若し、ルーテルが法王の罪狀を舉げ、明らかに其の命令を拒み、斷乎として法王政治の根本を打破したるが如き程度に由るとせば、今回の本願寺改革論者をもて新教主唱者の如く見做すは當然ならん。左れど、彼等は如此き非倫を企つるものにあらず、其の揚言する所は、寺務の改革なり、其の主眼とする所は一契緣を除かんとするにあり。而して、此の單一なる小

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

改革の爲に、一派千百の門徒鼎沸し、委員踵を接して集まり、誓願書數尺に積み、調印萬をもて算すとかや、何んぞ其の囂々たるや。

吾人窃かに惟ふ、此れ寺務改革の方にあらず。况んや、本願寺門徒たるものゝ畫策たるに於てをや。夫れ、教内に無上の神聖を有し、一派安心の權化となり、最大無限の威力を保つは、本願寺法主の特色にあらずや。若し之を非とするものは方今の與宗を去るべし。苟くも此宗に在て此宗の爲に憂ふと言ひ、乃ち其の善利の爲に寺務を改革せんとするものに於ては、用心、手段の謹愼なると、少くとも政海に於ける忠臣たるものに遜ふべからず。

凡そ、忠名を負ふは、忠臣の最も恐懼する所なり。古來、眞忠の士が腸を絞り血を滴して最も苦心せる所は、何事ぞ。只だ君主不明の名を公にせず、自己の忠直を現さずして、而して、沒形跡の暗中飛躍を了せんとせしは則ち是れならずや。惟ふに、今の本願寺改革論者の忠誠を以てして、此種の苦衷なきにあらじ。

抑も、揚言して君側の奸を除くと云ふもの、古來多くは書生の彈劾に於て之を見る。而して其良結果を奏せしものは極めて稀なり。夫れ、君側に奸あるは、何人の過ぞ。既に認められて奸たるものゝ依然として去らざる時は、何人の不明ぞ。斯の如くにして之を去る未だ可ならず、去らざるを彌よ迫るに至ては最も不可なり。忠臣たるもの、夫れ究極する所の責を何處に歸せしめんとする乎。

吾人夙に察す。本願寺たるもの運りに時の政體を摸倣す、故に其の利害の影響も亦た之に伴隨せざる可らずと。試みに、政海古今の出來事に比較せば、若々として其の相似るとの甚だしきに驚く可し。但だ夫れ相似る、是れ數の然らしむるものと云ふと雖ども、苟くも殷鑑を活用するの徒は、其の誤謬を再びするの要あらんや。

吾人豈に本願寺の制度に謳歌するものならんや。但だ其の制度の甚だ吾が政體に似たるものあるを以ての故に、本願寺一派に起れる擾動變化の經歴をもて輕々に視去ると能はず。加ふるに、改革論者の赤誠斷じて貶むべくものにあらざるを知り、而も其の災の反つて誠忠の上に下らんとするを見て慨歎止まず。玆に諸君に一言を寄するとの已みがたきと同に吾國幾

多熱血の士に反省を乞はざる可らざるものあり。

吾人密かに惟ふ、本願寺を亡ぼすものは、其の改革論にあらずやと。吾人亦時として歎なき能はず、帝國を危くするものは、其の忠臣にあらずやと。唐の魏徴曰く、臣をして忠臣たらしむる莫れと。忠臣あり、改革者ある、夫れ豈に人世の吉兆ならんや。

女學

孤女學院名稱を改む

明治二十五年一月、孤女學院設立の告白あり。其中の一節に云く、

吾等素と富まず、然れども孤女に優りて有する所のものは悉く孤女の爲に義捐せんとす。而して孤女と共に飢餓を分ち、皇天もし吾等に食を賜はずんば則ち孤女と共に餓死せんとす。而して皇天もし孤女と吾等とに一日の命を與へば、則ち共に與に一日の學を修めんとす。

と、蓋し此院初めよりの期望は女學にあり、單に親なきの兒を育くまんとのみの主旨にはあらざりしならん。左れど、亦是れ孤兒院の一なれば、學院の二字の上に孤女の二字を冠らせられしに、院父大須賀亮一君、痛感する所あり、今度名を改めて『瀧の川學園』と稱し、全く孤女の二字を除却せられたり。吾人平生大須賀君の人と爲りを知悉するをもて、今回の改稱につきても亦た忖度する所あり。深く君が用意の周密にして慈愛の濃やかなるに敬服せり。蓋し君惟へらく、孤女をして其の孤女たるとを自覺せしむるは、不憫の極みなり、彼等をして悉皆、世の悲慘を忘れ、温平たる室家の團欒の裡に安住せしめて、以て圓滿馥郁たる成育を遂げしむるとを得んと而して、學院の院字に更ふるに園の字を用ふ、君が慈愛の情はよく掬すべき哉。曾て某あり、此院を訪ひて孤女に尋ねける樣、御身には兩親なきにや、さこそ寂しからめと、然るに彼兒は太だ不審み、否な妾には「おとうさま」があり升と言ひて毫も疑ふの躰なかりしとぞ。そは院内の兒等すべて大須賀君を呼びて父とすれば也。海舟先生、此院に題して、曰く、『温凮孤兒眠』と。院内の光景忽ち察すべし、此處の兒等實に

寂寥の態なきなり。而も、大須賀君倘は安んぜず、密かに從來『孤女學院』の名を用ひたるを恥ぢ、將來斷然孤女の二字を彼兒等の耳目に觸れしめじとせらるるもの丶如し。吾人深く其の慈心に敬服し、凡そ、敎育の神髓なるもの即ち此邊の用意に存するを知れり。

女學研究會の創立を望む

凡そ一事に專攻するの士人は、其の經驗を重ぬるに隨がつて彌よ其事の難きを知り、之を知るその彌よ熟するに隨つて、何事をも知らざることを知ることのみぞ彌よ增加すべし。苟くも此の敬重の念をもつて眺むれば、天下の人事何ものか容易ならん。然ども、女學の事の如きは蓋し難事中の難事なるべし。蓋し女學なきの世はあらず。凡そ娘に其親ありたらん以上は、何如なるかの女學は施しつらん。左らば、古への女學を見て今の女學を考ふること出來がたきにあらざるが如しと雖ども、古への女學たる、殆んど其の方術を傳ふることなし、今人の之を聞きて之を參考に供するの道は殆んど絶たり。既に前代の考ふべきもの少し。左らば他に經驗ある先輩ありやと云ふに、新日本に入つて新女學の開けたる至つて輓近の事に屬し、既に克く長年の經驗を重ねたるものは未だ曾て有らず。今代の日本女學者たらん族は、惣て創業始學の困難を甘んぜざる可らざる也。

左れば、同盟相助けて、其の疑を質し、其の研究を交換し、其の講習を分擔し、以て速かに新女學の基礎を確立せざる可らず。これ眞に方今の女學界に緊要の事なり。

語を寄す、官民內外の總べての女子敎育者、何ぞ時々一堂に相會して、其の研究を合はせ、速かに共同の難儀を除却せんとはせざる。吾人の如きは、久しく其の期望を祈りて、其の成就するの速ならんことを熱望して止まざるものなり。

曰く、家政學。曰く、兒童の研究。曰く、婦人特別の心理及特別の生理、曰く、女子寄宿舍の取締。凡そ此等の諸問題は、今に方りて特に先づ研究を要するの科目たり、而して、未だ其の研究の公けにせられたるを聞かず。かの不束ながら男子の敎育研究會に於ては多少の切磋あるに關らず、女學に於て殆んど全く此の一事を缺ぐは頗る遺憾にあらずや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

園藝の家庭に及ぼす感化

花壇を仕立て時々の花を眺め、果木に培ひて折々の果實を採り、蔬圃の野菜をかはる〴〵收めて常に新しき味ひを樂しむなど。又は、睦まじく群れ集ふ庭鳥の産卵を取締り、犬をなづけて狐狸の戲むるを防ぎ、茶、桑、桐などを植ゑて十年の計を備ふるに至るまで、概して園藝と云ふものの區域に屬す。

扨て此の園藝は、之を專らにして一つの職業となすとも亦可なれど、願はくは戸々の家庭に屬せしめて、主婦の看護の下に少しづつ執り行はるるものと爲したきこと也。此は園藝より上り來る經濟上の利益亦多きによりてのみ言ふにはあらず、其の家庭の風儀の上に及ぼす影響の太だ大いなるによりて強めて言ふなり。

經濟上の利益は直ちに分ることにて更めて申す迄もなし。其の風儀の上に及ぼす感化力に至ては、少しく辯ぜざる可らず。凡そ古來人物の養成に、田園を第一とするは何如の理由によるとなす乎。山に於て養ひ、平原に於て施行すとは、古へよりの言ひ傳へなるが、家庭の周圍を田園山路の如くにすることの如何に兒童の敎化の上に大影響あるかは、右の理解によりて直ちに諒察することを得べし。其の遊戲を自然ならしめ、其の好尚を淡泊ならしめ、其の氣稟を新鮮ならしめ、常に高揚なる樂しみを得せしむるの感化それ幾何ぞや。

此の影響は單に兒童の上に於けるのみならず、家庭の男女總ての上に一樣の效力あるべく、主婦は之によりて、勤勉となり、節儉となり、氣長となり、健康となるべく、主人たるものの覺悟、趣好も亦た自づからにして同樣の歩みを取るに至るべし。

凡そ如何なる家屋の周圍にても、之を利用すれば尙は用ふることを得べき場所はあるものなり。數步の閑地と雖ども、之を用ふれば少からぬ益を奏すべし。たゞ心掛の足らざると、用意の綿密ならぬとによりて、廢地、遊地となり居るもの極めて多し。園圃なきによりて此事を行ふ能はずと言はん人は、篤と反省せられたきこと也。

吾人爰に　英照皇太后の御美績を敍して、其の長久の御感化を記し、養蠶又は園藝等を心掛べき由を注意したり。惟ふに、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

本年に於ける此等の仕事の準備時期は最早迫り來れり。戸々の家庭の人、更めて警心し、試みに先づ多少の着手を下されたきことにぞある。

作文の教授

作文の修業は兎角空に流れ易く、無きことを有るかの如く認めて、虚飾を巧みにし、言を妙に、章を美くしてのみ、文の能事了れるかと思ふものの多げなるこそ奇怪なれ。滿腹の思想を筆端にもらし、胸中の花を墨沫に咲かせ、眞に心に在ることを言明したるならでは、亦是れ一種の僞たることを免れず。

凡そ、作文も亦た一つの修養にて、單に文を作ることをのみ文道の心掛とはなすまじき筈ゆゑ、內外一致、言思合體の工夫を積みて、白紙にすら〳〵と心の誠を寫し出すが如く、總ての言行も亦一致せしむるに至らんこそ、作文の指南の目的たるべけれ。

然るに、文を敎ふるもの先づ此の心掛の徹底せざるにより、學ぶものは固より其弊を免かれず、徒らに、艶文措辭の末に惑溺して、文の本道に遠ざかること彌よ甚し。此故に、一瓢を携へて云々と書くを得意にするものなども輩出するに至ることなり。

或人の作文敎授法は之と異なる。先づ其法を幼き子等に試みたるを聞くに、學科時間內に初めより作文の時間と云ふは置かず。かねてより「此時間筆談の外、言語を禁ず」の札を造り置き、時を見計らひ、突然之を敎場に掛ぐることとなり。然る時は、子等何れも石版石筆を携へ入り、質問にも、應對にも、何等些細の用事にも、一々、之を文字に認め、敎師に見せ、一言も語を發せぬこととなす也。之れによりて實際の必要より文を作り、文の辭も自づから、實際に近づき、時としては心に熱望すれども其文字を知らず、已むを得ず假名文字にて認めたるを、敎師より其字を敎へらるゝこともあり。又、之にては敬意を表しがたしと掛念する文法を辛苦して作り、別に其意を斷り書などする時は、又、敎師其の文を改むることもあるべし。總べて此如き必要より出でて、熱意の末に成れる文章ゆゑ一字一句の敎授も強く腦中に感染し、其の眞實の意味を瞭解すると同に其記臆を長久にし、尋常敎授法によりて得

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

たる知識とは、大に趣きを異にするものありと云へり。凡そ何等の學科にても、實地の經驗より入りて其の學理に歸着するやう取扱はざる可らず。これ、人心、物を覺るの順序にして苟くも變易すべきにあらず。誤つて此の道行を逆にするときは、喩へば、雲を捉へて而して后ち道路を履まんとするが如し、理解空漠にして、智れども尚ほ悟らず、智識は皆な無用の長物とならん耳。古へより先人皆な此の學弊を憂ひ、或は、理學的教育とも云ひ、又は實物教授とも云ひ、又は開發的教育、もしくは、智行合一など唱へて、惣べて此の教育の道行を示すにあらざるなし。然るに、聞くもの亦た此等の教を格言として空に聞入れ、之を實驗せんともせず、亦又此の教訓を空漠的に理解せんとする也。斯の如くして遂に徹底の期なく、いつ迄も、前程の雲に迷ひて、脚下の道を誤らんとするは何等の不覺ぞや。

春のほどはわが住む庵の友になりて
ふる巣ないでそ谷の鶯

○女子教育振起の現勢

女子教育振起の、現今の趨勢たる事は、我黨の屢辯じたる處にして、今更云ふを俟たず。吾黨はまた卅年に入りて、其實際の形態を執りて顯はれ來るべきをいへり、既に昨年中高等女學校の增加するもの二、總數に於て十五を算するに至れり、而して同種學校設立の必要を唱ふるもの盛んに、其結果以後數年間にして、各府縣に設立せらるゝもの必ずや頻々として多きを致さん。

新年に入りて女子教育振起の必要を唱ふるものゝ文字によりて世上に現はるゝもの、亦少からず。今夫等に就きて聊か通觀せんか。

教育時論上の近刊號は學制改革私議を提論して、中、女子教育に關して策論して曰く、

女子に高等の智識學藝操行を授くる處は、唯僅に女子高等師範學校あるのみ、其すら教師養成といふ特殊の目的を有し、未だ純粹に女子に高等の學術技藝操行を教ふる處なし。吾帝國に一個の女子高等專門學校なきは、實に遺憾の至と謂ふべし。故に今日は高等小學を終はれる女子は、高等女學校に入り、高等女學校を終れる女子は、女子高等專門學校に入るべき、秩然たる系統を立て以て、女子教育の振興を謀らざるべからざる必要なり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

而して時論記者は女子高等專門學校を新に東京に設けて、之を男子の高等學校に匹敵すべき程度のものとなし、且つ女教員の供給を擴張するため、同校卒業生中の教育思想あるものは、高等女子師範學校卒業生同樣、教師として採用すべしと立策す。高等女子教育器關の必要は、既に我黨も多年之を唱へ來り、又既に私立女子大學の建設をさへ計畫するものもあり。遠からずして我邦人、必ずや其必要を認識して、この需要を供給するもの丶興起することあらん。

宮城縣知事は同縣教育會に向つて、師範學校女子部存廢の利害如何を諮問したるに、教育會は、女教員養成の必要よりして、同女子部の廢すべきに非ざるを陳じ、女教員を供給して、女兒就學を奬勵するは、目下の急務なりと答辯したり。

また滋賀縣教育會は昨年の總集會に於て、同縣下には既に彦根町立高等女學校と、同教育會設立の高等女學校とありと雖も、規模設備なほ狹小にして、到底職掟の女子に要する完全の教育を施す能はず、加ふるに女學校女教員の缺乏を訴ふると頗る多きに際し、以上二校の出身者を以て、其需用を滿たす能はざるを以て、之が爲に左の二策を立て丶知事に上請するに決議したり。

一縣立の女學校を設立し女子教育の擴張を謀る事

一女教員の需要を充たす爲女教員養成の方法を立つる事

思ふに各府縣の教育會は、必ずや同樣の方面に向つて一運動を起し來ることあらん。既に來三月に於て長崎に開會せらるべき九州沖繩縣教育大會の討議問題十四ヶ條の中にも、

高等女學校は一府縣に少くとも必ず一校を設置すべきこと丶すの必要なきか。

との條目あり。彼教育大會の議員等は此の疑問に對して如何なる決議をなすや、未だ豫測すべからずと雖も、此疑問ある既に高等女學校設立の必要の、廣く認識せられたるが爲めならずんばあらず。

東京下等社會の一瞥

（人力車夫、紙屑買、紙屑拾、下足直し、硝子毀れ買、木賃宿、甘藷燒等の統計）

布川靜淵

新聞紙上には折節、乞食小僧、紙屑拾、木賃宿等の狀態に就て、記者等の實見したる事ども、揭ぐるとあり、何人も市中に於て是等の者に出逢ひ、多少如何なるものなるかは、知る

ものありと雖も、未だ之が統計數を聞きたるもの少く、何人程あるものなるやは、知ざるが如し、左の表は明治二十八年度の警視廳統計書に據りて、調製したるものにして、各警察署の管轄の下に統計せられしもの、殆ど確實なるは云ふまでもなし。

署名	人力車輓	紙屑買	紙屑拾	下足直	硝子毀買	木賃宿	甘薯焼
麹町	一、三五六	五六	二	二四	四二	—	五七
神田	三、七五八	一四九	—	三六	一三八	—	一二五
日本橋	二、一四五	六四	—	三八	六一	—	八六
京橋	二、八〇一	四七一	三	一二〇	六六	—	一〇六
芝	三、四五五	二四九	三三	五八	二六六	三	一一二
麻布	一、五八四	九七	—	六一	九二	二	二一
赤坂	九五一	四五	—	一〇	四一	—	三三
四谷	一、二七八	一〇一	一四	三四	九一	一五	二三
牛込	一、五九八	一〇二	一	三〇	九八	—	三二
小石川	二、二三四	二八五	六	一三〇	一五二	—	五三
本郷	二、六七九	一六〇	三	二五	一二三	四	七九
下谷	三、四四二	四七三	五八三	六六	四六五	—	九〇
浅草	七、三二〇	四〇八	一八八	六八	四六〇	四一	一三〇
本所	三、三二一	二四四	—	五九	二四二	七一	一七
深川	四、三九七	一五七	一二	三八	一二	四二	八六
市部合計	四二、三二八	三、〇六一	八三四	七九七	二、三四八	一七八	一、〇四〇

（注意）此表は明治二十八年十二月末日の調査に係る者にして皆警察署の管轄下にあるもの也、故に麹町等と記したるは麹町警察署の管轄内にあるものと知るべし、但し一區に一署なれば區内と見て可なり。

右の表に據りて統計上の解説を記さん。

◎人力車輓

先づ人力車に就て云はんに、東京に於ては六七年來、二人乘減少して一人乘増加したり、即ち二人乘は明治二十四年に一万三千九百三十一輛なりしが毎年減少して、二十八年には八千二百五十三輛と下り、五年間に於て斯に五千六百七十八輛の減少あり。而して一人乘は二十四年に二千五百四十八輛なりしが、二十八年には三千二百〇七十一輛に増加せり、二人乘の減少は一人乘の増加に比して遙に多數なり。

此現象に就て私考すらく、(一)一時歐化風盛んにして、男女手を携へて歩行し、又合乘する風俗を生せしが、保守的の所謂國粹風、反動し來りて、漸次夫婦の合乘するとも好まざるに至れり。(二)經濟上よりすれば、合乘は安直なり、而も都人士奢侈に流れ來り、特に學生の如き遊技を弄び、衣服も華奢に柔弱の姿となり、概して奢れる次第より來れり、(三)年若き車夫増加したり、年少なれば腕力は合乘を挽くの勞力に堪へざるなり。(四)不躰裁上より來れり、二人乘の車を有する

も必ずしも二人乗るとのみならず、若し二人乗に一人乗れば左右に動揺して、乗者も不快に、輓くものも労多し。(五)已に二人合乗の人少ければ、二人乗車を有するも輪代は高し、税金も高し、且一人を乗せて、二人乗車なるの故を以て賃銀を倍して請求すると能はず、二人乗に一人を乗せて困難するより車体も軽く輪代も安き一人乗を輓くに如かざるべし。

是等人力車の事に就て、精細に取調べたるものあれど、他日に譲り、車輓の人数に就て一言しおくべし。

人力車夫の最も多く住む所は、浅草の七千三百二十八人、之に次て深川の四千三百九十七人、神田の三千七百五十八人、芝の三千四百五十五人、下谷の三千四百四十二人たり、最少なるは赤坂の九百五十一人とす。蓋し車夫の多き所は種々の現象を表はすものあり、或は貧民多きと、或は他の交通機關具らさると、或は地方人士が見物する個所の多少。或は交通の頻繁等、今一々此に記さず。

◎紙屑買

某と云ふもの語りて曰く、賤業に属する種々の業務を爲したるとありしが、紙屑買となりて始めて愁眉を開くを得たりと。但し此人の云ふ所によれば、職業の餘暇勉学を志すなれば、車夫の如き労に堪へず、紙屑、古着類を買ひ歩くと十日なれば後十日は一人の生計を立つるに足ると。東京市中の紙屑買は三千〇六十一人にして、最も多きは下谷の四百七十三、京橋の四百七十一、浅草の四百〇八なり、他は急に減じて小石川の二百八十五、芝の二百四十九、本所の二百四十四なり、最少なるは、日本橋の六十四と赤坂の四十五とす

◎紙屑拾

市中の紙屑拾は総計八百三十四人にして、最多き所は下谷の五百八十三人、實に他十四區の全數二百五十一人に比して二倍強なるを見る、浅草の百八十八は下谷の次に位す、今下谷と浅草とを合すれば七百七十一となり、他十三區の六十三に比すれば、兩區の占むる所十二倍餘なれば、即ち市中十三分の十二餘を有す。紙屑拾の巣窟は下谷と云ふべく、特に万年町邊に多し。紙屑拾の住まざる所は神田日本橋麻布赤坂本所の五なり。此紙屑拾の有様は昨年十一月頃の「時事新報」に明記されしものあり。此職業に從ふもの多くは貧弱の少年なり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

惟へらく、紙屑拾の増せば、夫丈け紙屑を棄つるものあるを表はすものにして、紙屑を棄つるは些少とは云へ、小僧丁稚下婢等の不注意にて棄つるなれば、一家の主婦始め注意する所あれば、此業漸次減少して他の業に移らん。されば拾ふ者増加すれば不注意も増加したる譯なり、紙屑を棄つるは書生社會に多きか如し。

◎下足直し

下足直しは、全數七百九十七人にして、最多なるは小石川の百三十八人、之に次では京橋の百二十人なり、次は殆んと半數に減じて淺草の六十八、下谷の六十六、麻布の五十一人となる、最少なるは赤坂の十人なり。

◎硝子毀レ買

硝子、ホヤ、ランプの毀れ等を營業とする者、二千三百四十八人にして、最多なるは下谷の四百六十五人、淺草の四百六十人なり、急に殆んと半數に減じて芝の二百六十六、本所の二百四十二人なり、之に次で小石川の百五十二人、神田の百三十八人、本郷の百二十二人なり、最少なるは深川の十二人とす。

以上、紙屑買、紙屑拾、下足直し、硝子毀れ買等は、即ち雜業渡世の者にして、明治二十七年は八千六十四人ありしが、明治二十八年(十二月末日)は、七千〇四十人に減じ、即ち前年に比して六百六十三人を減少せり

◎木賃宿

宿屋營業を三分して旅人宿、下宿、木賃宿となす、木賃宿の總計百七十八あり、其最多なるは本所の七十一軒にして、之に次で深川の四十二、淺草の四十一なり、次は四谷の十五にして、本郷の四、京橋の三、麻布の二となる、麴町神田日本橋京橋赤坂牛込小石川下谷の八區は皆無なり、されば本所淺草深川は木賃宿業の巣窟とも云ふべし。下谷は雜業渡世の最大數を有して、木賃宿の皆無なるは一異現象なり、蓋し矮小なる裏店に住居して、兎に角寄合長屋にて生活するもの多きなり。

因に云ふ、旅人、下宿、木賃の三旅宿に宿泊せし人員は、明治二十八年中、(東京の市と郡とを合む) 百二十二万三千四百八十二人(内、市部は九十万三千百〇三人、郡部は三十二万三百七十九人)にして既往五年間未だ曾て見ざる

所の多數とす。即ち二十七年に比して二十万二千百九十八人を增加し、二十七年に比して實に四十四万五千百九人の增加あり。而して此增加は悉く旅人宿にして下宿人は僅に二百餘人を增加し、木賃宿は却て一万四千四人を減少せり。但し二十八年に東京市部の木賃宿に宿りしものは、十八万六千四百六十九人にして、郡部は十二万六千九百七十人、合計三十一万三千四百三十九人なり、前二十七年は三十二万七千四百四十三人なりしなり。

◎甘藷燒

是は別に意ありて同列せしものに非ず、而も燒芋もて腹を肥すものは、重に書生社會と下等社會とにあれば、其營業數を見るも多少參考する所あるべしとて揭げたるなり。總數一千〇四十軒あり、最多なるは淺草の百三十にして、之に次ぐは神田の百十五、芝の百十二、京橋の百六なり。百以下にては下谷の九十、日本橋の八十六、深川同數、本鄕の七十九とす最少なるは本所の十七とす。

蓋し燒芋は書生、下等の勞働者、小商人、等に需要多きことは、明かなれども今一々其關係を說明するの統計を有せず。

右は單に此の如き種類のもの、大凡幾何あるや、其數を示したるものにして、人力車輓の年齡、彼等の組合規則、塲所によりて種々の慣例あること、借車輓の增加して貸人力車營業者の增加せしこと、而して此一事は最も社會問題に意を注ぐものゝ見るべきことなること、又紙屑買の生活は如何なるものか、紙屑を拾ふものゝ生活、年齡、一日の所得、習慣、之より退化する惡少年のことや、又、下足直しは平均何程の利益あり、何月頃最も仕事多きや、硝子毀れ買ひの生活、木賃宿の宿室より其夜具、之に宿るものゝ種類、宿料の奈何より、燒芋は如何なる人々最も多く要求するや等兎に角、右に列擧せる如き多數貧民の狀態を描くは、頗る切要のことにして、之に依りて仁心義膓を有する人士の同情を惹き、又彼等の惡習慣に泥み、漸次不良となる次第を明かにして、惡少年の感化、懲治事業に注意せしめんことを欲す。右の統計數によりて各區の種々なる現象を見て解釋し、之によりて學ぶ所あらば幸ひなり右の中には余の調査して解釋したるものもあれど、未だ全部に渉らざる者あるを以て、爰には載せざることとせり。讀者幸に之を諒せよ。(二月二十日記)

朝鮮國の教育

翻つて二十七八年度の抱負を顧みよ、茫として夢の如く感懷せざるもの幾人ぞ。隆んに疾呼して宇内に誇り、汎ねく全世界に對つて宣言したる氣慨、今何處にある。大詔煥發して千古に存し、凛として列國に臨む、此の聖意を奉躰して、一貫終始の忠を守るもの幾何かある。一時の興に乘ずるを以て經綸と云ふものはあらず、勢に附隨する何の義ぞや。若し吾が帝國の民、眞に憐れむべき鷄林の友の爲に盡瘁せんとせば、其言を二三にして而して彼の信ぜざるを責むるは何事ぞ。古來、帝國は渠より幾多の文明を輸入したり、寧ろ之を恩として其の德を懷ふべき也。而して帝國の渠に與へたる眞實の利益は何ものぞ。四百歲の反感未だ除かずして、義俠の事、五年にすら持續せず、屢ば方針を變動して他の信ぜざるを奇しむは愚にあらずして何ぞ。抑も教育は獨立の基礎なり、左れば、朝鮮の獨立を思念するものにして、朝鮮の教育を度外視するの理由ありや。玆に朝鮮國に於る吾國有志の教育事業を記述し、併せて他邦の關係事業を列記して、嚴かに同胞の猛省を促がす。

京城學堂報告

○開校

本校は明治廿九年四月十五日を以て、京城南部會洞に開校す、先是日本帝國の威信當邦に行はるゝや、官立日語學校は勃然として興隆し、尙其及ばざるを嘆じて乙未義塾と稱するもの七校を設立し、日語を以て漢城五百の青年を教育し來りしが、未だ幾ならずして形勢日に移り、從て乙未義塾の滅亡となり從來日語を學びしもの、悉く去て英米露佛の諸學校に轉ずるに至れり、然るに十月八日の變あり人心稍鎭靜するの狀あるを見、即ち歸朝して之を大日本海外教育會に謀る同會熟議の上、愈々京城學堂を設立することを決議す、於是余は命を帶びて翌年一月再び京城に入れり、爾來東奔西走漸く創業の準備を整ふるや、復二月十一日の變に遭ひ、已往の勞力と滿腔の希望とは全く水泡に歸せんとせり、然とも本會の素志は、斯かる一小事變の爲に挫折せらるべきものに非るを以て、一方に於ては韓廷に謁り、他方に於ては在留日本人士に謀る、時に日本人の殺害を被むるもの日に數人に出で、朝に見夕に聞き、擾々として警戒を之れ事とし、徹夜草鞋を穿ちたる儘寢に就きたる程なれば我學堂の成立も皆之を危みたりき、幸に時の公使小村壽太郎氏書記官日置益氏等懇篤なる奬勵と助力とを與へられしを以て四月十五日に至

り機を相て漸く開校の式を擧ぐるを得たり、當時入學するもの殆ど四十五名實に意想外なりき、乃ち南山の絶頂松風颯々たる處に於て大に入學宣誓式を行ひ兼て親睦會を開く我事業此に至て始めて緒に就く實に千歳の紀念とすべし

○教　師

教師は日本人小島今朝次郎、神宮茂八氏、朝鮮人劉漢容、李台煥の兩氏、及び守備隊後備第十八大隊よりは特別の助力を以て、陸軍少尉武永錢之助氏の監督の下に、一等軍曹吉井茂太郎上等兵住吉白道の兩氏を遣はし、兵式体操の教授を擔任せられ校務大に整頓せり、五月中旬守備隊の更代と共に兩校特別の情を割て歸朝せられ新守備隊第一大隊陸軍中尉小川具正氏の監督の下に小島中隊磯崎金隊の兩上等兵之に代て軍事教育を擔當せらる由て以て我學堂は他學校に比して新式訓練の下に運動するとを得るは、深く各氏に感謝し、亦大隊長其他に鳴謝する所なり

六月卅日に至り神宮氏は已を得ずして辭職し、一日歸朝布哇に渡航せらる、日月短しと雖氏が薫育の効は滅すべからず

七月一日石川三之助を聘して教授を依托す

十一月第一番級生徒高衡淳を擧げて、第四番級の助教となす、同月漢城病院長安田讓氏に依頼して、兩週醫事講話を聞く、現今正教員七名にして囑托小川中尉安田院長を合すれば凡て九名なり

○生　徒

生徒は其間多少の入退ありしと雖ども、常に四十人を下りしとなく、現今に於ては已に每日出席生徒六十九名（學籍上生徒數百五拾名）に達し、入學志願者、日々尙絶えず、一時全く退却せし潮水、今や漸く復び滿ち來らんとするの勢あり

○校　舍

校舍は二年中の期限を約し、日本人の持家を借入れしものにて、其構造朝鮮家屋なるが故に、僅に二教場を造るに足り、二三の小室は生徒の控處とすべきも、教場となすに足らず、然るに級數は已に四級に分るゝを以て、授業上甚だ困難を感ず、將來校務を擴張せんとすれば、是非共五六の教場と、一棟の教師宅を有する校舍を求めざるべからず

○年　齡

生徒の年齡は十二歳以上四十歳に達す、今級に從て之を分てば左の如し

第一番級	十七歳より卅一歳まで
第二番級	十五歳より卅歳まで
第三番級	十八歳より四十歳まで
第四番級	十二歳より十六歳まで

○身　分

身分は中等社會多く、或は前政府の官吏、若くは其子弟或は日本人と親交あるもの若くは其子弟等にして、盡く多少の日本的臭味を帶びたるものゝ如し

○課　程

四番級現今實施課程左の如し

日本語會話、　國文書取、　漢文千字文、童蒙先習、
讀本（學堂新編纂）、　筆算、　珠算、（以上四則）、　作文、
習字、　倫理、　体操、　談話、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

三番級課程左の如し

日本語會話、書取、飜譯、地理（萬國）、筆算

珠算、作文、倫理、体操、談話、

二番級課程左の如し

日本語會話、書取、飜譯、地理（萬國）、珠算、

筆算（四則應用問題）作文、倫理、体操、

日本語演説

一番級課程左の如し

日本語書取、會話、飜譯、物理學、作文、

筆算（分數應用及比例）珠算、倫理、体操、

日本語演説

此外毎週百科譚話を開き、變則的に諸科の智識を與ふることを務め、又安田氏の醫事講話あり

○特　　質

我學堂の特質とする所は、朝鮮政府の掣肘を受けざること、及組織の極めて自由なる點にあり、即ち如何なる種類のものと雖ども、其志望さへ堅確なれば、入學し得るの點にあり、現に新入學生の如きは、殆ど十六七人其大半は齢卅を經過したる書官吏等にして官立學校に入學するを耻づるもの丶如し、亦殆卅名に近き幼年科生徒の如きも、皆暗に日本の威信を儀として、將來の好運を祈り居るものなり

○成　　績

九月卅日、原公使が我學堂を參觀せられ、成績之良好を賞せられて、各生徒に奬勵品を賜はりしは、我學堂の過譽とする所なり、而して爾後三ケ月を經過して、

年末試驗を施行せしに、其成績甚良好なるを認めたり、特に日語の演説、珠算の熟練の如きは、各生徒を通じて（幼年科を除く）好成績を得たり、彼等の中其才能實に驚嘆すべきもの二三に止まらず、若し十全なる教育を施さば、決して日本人の後に落ちざるべし、

○希　　望

近來朝群人心漸く我に接近し來るの傾向あり、我學堂生徒の如き、創立以來未曾有の多數を得、日々校舍の狹隘に苦めり、此儀にて失望を與ふることなくんば、先づ好運と云ふべし、當邦學生の語學の才能に長ずることは、已に世人の認むる所なるが我學堂の如きも未だ九ケ月を出ざるに一番級及二番級生徒は、已に普通日用の言語には差支なき程に達せり、彼等の才能は、單に語學に限れるにあらず、百科皆興味を以て之を受く、生來未發の腦髓は、不滅の記臆を印するが如く思はる、若偏に親切誘導の方針を以て、愈熱意事に從はゞ成功決して疑あるべからず

朝鮮京城

京城學堂

明治卅年一月

朝鮮國に於ける

英米佛の傳道教育事業一斑

余輩は我祖國の同胞が、朝鮮教育問題に關して今一層の同情を起さんことを望む。何となれば古來一國が他邦と其關係を有するは、固より協同攻守の利害に關するもの多しと雖ども、宗教々育の効亦與て大に力あることは、歷史上明白なる事實なればなり。況や去る廿七年に於ける　大詔勅は、飽迄當邦の獨立を保證するの旨意なるに於てをや。余輩は今朝鮮教育に對する希望を陳述するさき、如何に各强國が此貧弱可憐の國民に臨んで、慈善的事業と勢力を、有するかを示さん。

○佛國教會事業一斑

創立	六十六年前
全國教會數	六千六百五十ヶ處
全國信徒數	二萬八千八百〇二人
全國宣教師數	佛人廿五人韓人三人
全國傳道費	壹萬弗(銀貨、毎年)
京城宣教師數	四人
京城信徒數	一千二百人
毎日曜禮拜數	六百五十人男二九〇女四〇〇
信徒待遇費	四百弗
學校數	二
教師數	十五人
生徒數	男七十名女三十三名十三才以下兒童五十名
學校費	四千二百弗(毎年)
宣教師俸給	未詳
會堂（在京城）建築費	十六萬弗

かの三角山と其高嶺を競へる京城の佛國四大會堂は、十六年間の傳道費、即ち十六萬弗の資を擲て、建築せられ、其規模の宏壯にして、修飾の燦爛たる、已に之を以て韓人の魂膽を奪ふに足り、而して尙毎日曜六百の男女を集めて、且つ敎へ且つ之を饗應す、(信徒待遇費四百弗を以て饗飯を與ふ) 外觀と小利を以て人を動すは、熱心に欠ける彼等が第一の方便なるが如し。此方針を以て勉むること茲に六十六年、今や全國人民百分の五は、佛國宣教師の左右に任するに至れり。嗚呼何ぞ其盛大なるや。

○米國北長老教會事業一斑

創立	十三年前
宣教師數	廿九人
信徒數	一千百四十五人
傳道費	四百四十三弗五十四仙(銀貨毎年)

(此他教會建築費、教務擴張費、傳道士俸給、井に諸種の寄附金寄送金あり)

宣教師俸給額	壹萬八千百二十五弗(金貨)
病院	五ヶ處
教會	廿三ヶ處
朝鮮傳道者	三十人内女四人
少年寄宿學舍	一校
同生徒數	五十人
女兒寄宿學舍	一校
同生徒數	三十五人
實問學校	八校
同生徒數	二百〇五人

○米國南長老教會事業一斑(省略す)

創業は十三年に以前に在り

○米國メソヂスト教會事業一斑

創業	十三年前

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

教會數 八ヶ處
病院數 三ヶ處
信徒數 八百十七人 内四分の一は女子
宣教師數 二十五人
朝鮮傳道士數 三人
傳道費 一千二百四十圓
朝鮮事業補助金 六百圓
培才學堂費 七百六十八圓
同生徒數 百廿人
李花學堂（女學校）生徒數 四十人
朝鮮政府よりの補助金（培才學堂）一人に付金一圓宛
（其他建築費、病院費、俸給等の寄送金あり）

○英國教會事業一斑

創業 八年前
教會數 二ヶ處
宣教師數 十六人
俸給額 千二百ポンド
病院數 二ヶ處
（右病院は英國海陸軍將校及公使館領事館員等寄附金を以て維持す）

朝鮮國官立學校概況

○漢城師範學校

位置、中部慶幸坊校洞

本校は開國五百〇三年九月（明治廿七年）政府改革に際し、學部衙門を新設せし後、間もなく創立し、小學校員養成の目的を以て、生徒五十名を募集し、卒業期限を二年と定めて開校せしが、其職員皆朝鮮人たりしが故に、万般施設の方法未だ完

からず、依て昨年之を中止し、更に六ヶ月卒業の速成科を新設し、日本人を聘して主任教官として、授業を始め、第一期の募集生徒は昨年末已に卒業し、總數五十名の内、卒業者二十七名、其内十二三名は小學校員に任ぜられ現に各小學校に在職せり、目下第二期の生徒を養成し居れり、而して是又今年十一月を以て卒業すべき豫定なり、其科目及教官、生徒の員數等左の如し。

教科目

讀書（論語）。修身。作文（漢文）。万國地誌及歴史。理學一斑、化學一斑。地文學。算術（分數小數比例）

校長學部編輯局長 李庚植
教官 日本人 高見龜 （年俸八百圓）
同 奏任六等 鄭雲復 （年俸四百八十圓）
副教官 判任五等譯官 韓義容 （月俸二十圓）
判任六等 朱道煥 （月俸十五圓）
外に書記一名

此内、地理、歴史、理科學等の新科目は、通辯に由りて高見氏之を教授し其他は朝鮮教官之を擔任し、而して新科目の教授を眼目とせしが、現任學部大臣（申箕善氏）就職後、大に此等科目の時間を減少し、專ら讀書、作文（漢文）を獎勵し、全く後來の方針を一變せり、且又從來躰操の一科を置き、軍部の下士官を招きて、兵式躰操を教授せしめたりしが、是又全く之を廢せり。

現在生徒數 四十名

年齡十八歲より四十歲に至る、平均年齡廿七八歲、身分は大抵中人にて、地方の漢學生多し。

此生徒は官費生とし、一人に付き一ヶ月六圓宛支給し、皆校内に寄宿せしむ。

經費

凡そ六千圓 總額
内
二千三百圓 教官其他小使等雇給
二千八百圓 生徒賄料其他紙筆墨等（一人六圓宛割）
九百圓 其他一切經費

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

小學校は師範校設置の際、附屬小學校を設けしを始めとし、次て昨年（開國五百四年、明治廿八年）八九月頃より、京城内に六校を設け、本年（建陽元年、明治廿九年）八月又更に二校を新設し、現今合せて九校あり、即ち、左の如し。

中部　漢城師範學校附屬校洞小學校
東部　養士洞小學校○揚賢洞小學校
西部　貞洞小學校
南部　水下洞小學校○銅峴小學校
北部　梅洞小學校○安洞小學校○齋洞小學校

現在生徒

總數五百三四十名、一校平均六十人位にて、卒業期限は尋常科三年、高等科三年と定めたり現今高等科は師範學校附屬小學校にあるのみにて、他は皆尋常科生徒とす、生徒年齢は、六歳以上十五歳の規定なれとも、實際は六歳以上廿二三歳迄ありて、其内十四五歳のもの多數を占む、身分は中人多し、何れも無月謝にて、書籍は悉く貸與するものとす、授業時間は、每日六時間なり、

教員

一校に多きは三人、少なきは一人もあれとも、大抵二人宛ありて、是は皆師範學校第一期の卒業生たり。

教科目

讀書（千字文、童蒙先習、擊蒙要訣　何れも漢文）小學（孟子類）習字、（漢文國文）○作文（漢文）○修身（五倫行實、小學校）○地理（學部編輯局新刊朝鮮地理）假名交り文○歷史（同上朝鮮歷史）

體操は現學部大臣就任以來之を廢し、又曾て日本語を一科目に加へしが、是は昨年末已に之を廢せり、又讀書科の如きは、從來學部にて編輯せし小學讀本類を用ひ專ら假名交り文を教授せしが、是又、現學相就任以來之を廢し專ら漢文を奬勵せり。

經費

教員の給料は大抵十四五圓にて生徒一人に要する筆紙墨等の費用は一人一ヶ月四拾錢位なりと云へば

總額凡そ　五千五百圓
一校平均　六百圓

○外國語學校

外國語學校は、開國五百三年夏（明治廿七年）の改革前より、外部衙門の所轄にて日、英、清、三語學校の設けありしが、改革の際、之を學部衙門の所轄とし、其際清語學校を廢し日英の二校なりしが、今建陽元年春（明治廿九年）更に法、俄の二校を興し現今四校存立す、

日語學校　位置、中部貞幸坊校洞

本校の起源は、開國四百九十七八年（明治廿二三年）の頃より内は朝鮮官人高永喜氏（現外部協辦）等の盡力と外は時の日本公使（故）近藤眞鋤、領事杉村濬氏（現臺灣民政局事務官）等の斡旋とに由て漸く開國五百年（明治廿四年）九月を以て、創立の運に到りしかど、當時韓廷は、閔泳駿氏勢道たりし時代にて甚だ此の如き新事業を好まず、僅に南山々麓日本公使館の傍に蕞爾たる一校舍を設け、日本より文科大學卒業生岡倉由三郎氏（現鹿兒島高等中學校造士館教授）を招聘して、教官とし生徒二十人計りを募集して之に附托し政府は放任して殆んと關せす豫定の經費も定時に支出せざる程にて、當局者の困難一方ならざりしが、五百二年九月（明治廿六年）岡倉氏條約期滿ちて解任歸朝し、長島尙次郎氏（現主任教官）後任者として、其業を繼續し來りしが、一昨年改革の氣運に際し今の所（校洞）に移し職員を增聘し生徒を增募し稍や規模を廣めたる者なり而して昨年春初は本校最盛の時期にて生徒の員數殆んと百五十名に達せしが爾來改變の爲に常に動搖し中道にて或は退校し或は就官し又は日本留學を命ぜられたる者等ありて現時再び舊時の有樣に復せり。斯の如くにして創立以來入學生徒の總數は已に三百餘名に及びたらんなれども未だ定期三年の課程を履修し全く業を卒へたる者なし（他の外國語學校も固より然り）之れ一は政變の爲め、影響を受くるの甚だしきと一は朝鮮青年の如き、游惰遊行の徒が、三年以上の歲月を學校に費す如きは、最も難んずる處なるによる況んや此等諸學校生徒の目的は一に官吏たらんとするにありて、如何なる微職と雖も、苟も仕官の道とへあれば、直ちに出で去り學業の成否は固より問ふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

農にあらざるなや、故に當局者は近來此弊を防がんが爲め、學部令を發し、一方に於ては在學中の生徒を、妄りに各部官吏に採用するとを禁じ、一方に於ては退學者に罰金を科するの制（外國語學校一ヶ月二圓五拾錢、師範學校一ヶ月一圓五十錢、小學校一ヶ月一圓の割を以て、在學中の費用を償還せしむる法）を定めたり、是れ將た未だ充分に履行し難きの憾みありと雖も、幾分か其効なきに非らず而して從來本校生徒中、最上級即ち三年級（即ち卒業前殆んど半年乃至一年）迄業を修めたるもの、一昨年に於て八人ありしが、是は同年九月改革の際悉く參書官、飜譯官主事等に採用し、又昨年春に於て六人ありしが是は日本留學を命じたり（今は皆歸國せり）而して現今二年後期生九名あり、此の一團の生徒に於て始めて本校卒業生を出すの望みあるが如し、科目及生徒の員數等左の如し。

教科目

會話○讀書○飜譯○書取○万國地理○万國歷史○修身○理化學一斑○算術（分數比例）○作文○躰操

二年後期生現在教科目

讀書（東京吉岡書籍店等小學讀本八）○地理（文學社編輯明治地誌三）○歷史（大和田建樹氏新躰万國歷史上）○修身（能勢榮氏高等小學校修身書七）○飜譯（和文韓譯、韓文和譯）○書取○算術（分數）○演說（日語）○躰操（兵式躰操）

生徒數

三十六名　二年後期生九名
　　　　　二年前期生二十七名
　内日々出席者平均二十七八名

年齡は十六七歲以上三十歲迄にて、二十歲前後の者多數を占む、身分は中人多し、他の外國語學校と同じく、何れも無月謝にて、書籍は貸與し、筆紙墨は給與す、寄宿舍なく皆通學とす

英語學校　位置、農商工部衙門後、舊電信局跡

本校は之を日語學校に比すれば、其創立の久しきと同時に、其變遷も亦甚しかりき、今其沿革概略を叙せんには先づ之を三期に分つを必要とす

初め今を去ると十四年前、即ち開國四百九十二年（明治十六年）外部衙門に於て英人ハリハアクス氏（現英語學校教官）を聘し英語通辯養成の目的を以て、生徒二十餘名を募集し、期限を三年と定めて、授業せしめたるとあり、之れ實に朝鮮に於て英語教育の濫觴にして、現今朝鮮官人中、聊か英語を解する者あるは此時に於て養成せられたる者多しとす、已にしてハリハアックス氏は、任期滿ちて日本に赴き生徒中用ふべき者は、相當官吏に任用して、一旦此業を畢りたり、是れ本校第一期の經過なり。其後天津條約の結果により、朝鮮政府は、米國士官を聘して、錬武公院（士官學校）を創立し、練兵を行はしむるに際し、英語學校を必要とするの議ありて、米國人ギルモア、バンカー、ハルバート（此時三人は紐育府神學校の高級生なりき、バンカー、ハルバートの二人は今宜教師として當地に在留せり）の三氏を聘し錬武公院に對稱して、育英公院と號して開校したり、之れ實に開國四百九十五年（明治十九年）九月なりき、爾後教師は孜々其職を勵みたりしかども、生徒は新陳交代して、業を全うするものなく、政府當該官吏は妄に校金を私用して必要の經費を支給せず、爰に於てギルモア、ハルバートの二人は、居る三四年にして絕望の極、先づ歸米しバンカー一人殘りて僅に其業を繼續し來たりしが、是又開國五百二年（明治廿六年）に至り任期滿ちて歸米の途に就きたり、然るに此際ニンステツト氏、已に錬武公院に止まり居りしかば、暫く入つてバンカー氏の後を襲きたりしが、居ると三四ヶ月にして、再び他に轉じたりしかば、當分休業するとゝなりぬ、是れ實に本校第二期經過の梗概とす。

開國五百三年（明治二十七年）夏、政府改革の際、學部衙門新設せられて、本校を繼續するとに決せしが、是より先き、改革前に於て、江華島に海軍兵學校を興すの議ありて、五百二年（明治廿六年）秋より英人ハチソン氏を聘し、同所に於て、其準備手段として、先づ英語を教授せしめ居りしが、今や之を本校に合併しハチソン氏を招きて、主任教官とし、五百三年（明治廿七年）秋より業を始めたり、之を本校の第三期とす、然れども此中生徒は尙三四十名にて、萎靡不振の有樣なりしが、以來本校と日語學校とは反比例をなして盛衰し、昨年秋頃より日語學校生徒の減退すると同時に本校生徒は益々增加し來り、今や彼の衰退の時代は、即ち本校最盛の時代にして、目下生徒の員數既に百名を超え、主任教官ハチソン氏の外更に再びハリハックス氏を增聘し、日々授業をなし居れり、然れども朝鮮人が英語を學ぶは（俄法は勿論）、之を日語に比すれば更に幾層の困難を感ずるを以て、彼の日語學校の生徒が僅々一二ヶ月にして已に自由に普通の日語を操り、更に通

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

んて地理、歴史、等の實的の科目を講修するに比すれば、其進步極めて遲緩なるを免かれず、之を要するに薄志弱行なる朝鮮青年の能力には、日語を除く外、他の外國語に由て事實と學理とを研究せんとするが如きは殆んど至難の業に屬するが故に、本校教授の結果も結局會話的に止まり、未だ其他を望む可からざるが如し、現在生徒及科目の概畧は左の如し。

現在教科目

習字○會話○讀書○作文○文法○算術○翻譯○普通學一斑○口授○體操

生徒數

百十名　　之を五級に分つ

內日々出席するもの凡そ百名なり

年齡十六歲以上廿八歲迄、平均年齡十九歲、身分其他は日語學校に同じ

法語學校、俄語學校の位置中部貞洞坊磚洞

此の二校は最近の設立に係り、前者は今建陽元年一月（明治廿九年）より、後者は同年五月より、開校せしものなれば、其教ふる處も亦未だ會話の初步に過ぎず、其現在生徒は左の如し、

法　四十二人　　日々出席者　三十五六人

年齡十五歲より、平均年齡十七歲

俄　四十八　　日々出席者　三十人

年齡十六歲より四十歲迄、平均年齡二十歲

職員

又各語學校の職員及び經費の概畧を掲ぐれば左の如し

外國語學校長　　學部外務局長　　鄭昌係

日語學校

主任教官　日本人　長島岱次郎（月俸一〇〇圓）

教官　同　吉見正（三〇）

副教官　判任五等　主管運（二〇）

體操教師　軍部下士官二名

英語學校

主任教官　英人　タブリユー、ザエ、エフ、ハチソン（月俸二八〇圓）

教官　同　エフエーハリハアックス（同一五〇）

副教師　朝鮮人　四人內月俸二十四圓一人十五圓三人

體操教師　英公使館守備下士官一人

法語學校

教官　法人　イー、マーテル（月俸一二〇圓）

副教官　朝鮮人　一　人（同二五）

體操教師　俄校に同じ

俄語學校

教官　俄人　エヌ、ビルフ（月俸一五〇）

副教官　朝鮮人　一　人（同一五）

體操教官　俄公使館守備兵數名

○經費

金七千圓　　英語學校費

內

六千圓　　教官其他雇給

金三千圓　　日語學校費

內

二千二百圓　　教官其他雇給

法、俄二校、粗ぼ日語學校と同じ。

○成均館

本館は孔子を祭る處にして、古來設置せられたる經學講習所なり、恰も日本舊幕時代の聖堂の如し、一昨年改革の際之を廢せんとしたるも守舊派の人々、甚しく

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

反對したりしかば、僅かに其名を存し置きしも、現任大臣申箕善氏就職以來之を復舊し益々盛大ならしめんとを企圖して頗る盡力し今春生徒四十名を地方の儒生中より募集し、寄宿舍を設け官費生として之れに居らしめ、專ら漢學を讀習せしめ居れり、其職員、科目、生徒數及び經費の概略左の如し。

館長	奏任六等	徐相鳳(月俸四〇圓)
教官	同	韓致愈(同上)

生徒員數四十名、平均年齡四十歲

教科目

經書○歷史○作文○算術

經費　總額凡そ　二千圓

○仁川外國語學校へ(日語學校)支校

本校は一昨年政府改革の氣運に乘じ、時の仁川府監理使と、同港駐在の日本領事との企圖になり昨年即ち開國五百四年(明治廿八年)三月、日本人岩崎原太郎氏を雇聘して教官とし、生徒三十人を募集して開校せしが、間もなく學部衙門に交涉し、其結果に由て日語學校の支校と定め、純然たる官立學校として存立するものなり其現況左の如し

教官	日本人	岩崎原太郎(年俸六〇〇圓)
副教官	朝鮮人	一名
生徒員數	二十五名	

教科目

會話○讀書○翻譯○書取○算術○躰操

經費　一千四百圓

更に讀者の便宜を計り、以上擧ぐる處の諸要目に就き、各校之を對照すれば左の如し。

校名	教官員數	生徒員數	同平均年齡	同身分	授業時間	經費	創立年月
英語學校	六人	二〇人	一九年	中人多數	四時乃至五時	七、〇〇〇円	(開國四百九十二年(明治十六年))
日語學校	三人	三六人	二〇	同	同	三、〇〇〇	(同五百廿五年)
法語學校	二人	四二人	一七	同	同	同	(建陽元年 同廿九年)
俄語學校	二人	四〇人	二二	同	同	同	(前同)
師範學校	四人	四〇人	二八	同	同	六、〇〇〇	(同五百三年 同廿九年)
成均館	二人	四〇人	四〇	同	同	二、〇〇〇	(未詳)
仁川日語學校支校	二人	二五人	未詳	同	同	一、四〇〇	(同五百四年 同廿八年)
小學校九校平均	二人	六〇人	一四	同	六	六〇〇	(開國五百三年(明治廿七年)より建陽元年(同廿九年)迄)

此內師範學校及成均館は純然たる官費生にて、生徒は校內に寄宿せしめ、他は皆通學せしむ、但し何つれも授業料を徵せず、教科用書は貸與し、筆紙墨は給與す、

○本表教官員數中、躰操教師は之を算入せず。

以上記述し畢りたる際、學部大臣申箕善氏俄かに其職を罷められ(其著儒學經緯と題する書中、外國排斥の趣意ありしが故に)宮內府掌禮院卿閔種默氏今其後を襲げり、今參考の爲學部現任の各高等官を左に列記すべし

官職	等級	氏名	年俸定額 円	實給額
大臣	勅任一等	閔種默	四〇〇〇	三二〇〇
協辦	勅任三等二級俸	閔商鎬	二二〇〇	一七六〇
參書官 學務局長	奏任三等 並外國語學校長	韓昌洙	一二〇〇	九六〇
同編輯局長	師範學校長 奏任二等	李庚植	一二〇〇	九六〇
同秘書課長	奏任四等	供禹觀	一〇〇〇	八〇〇
同會計課長	奏任四等	李海德	一〇〇〇	八〇〇
同文書課長	奏任六等	尹憲學	六〇〇	四八〇
觀象所長	奏任四等	李敦修	一〇〇〇	八〇〇
同技師	奏任六等	劉鑒鳳	六〇〇	四八〇
成均館長	同	徐相鳳	六〇〇	四八〇
同教官	同	韓致愈	六〇〇	四八〇
師範學校教官	同	鄭寅櫰	六〇〇	四八〇

此外、各局課に屬する主事(判任官)、總計十五六人あり。現在當國高等官の俸給は、政費節減の爲め定額の十分の二を減じて支給する事とす、故に今定額と實給額とを區別して之を示すと前項の如し。

更に再び雇外國人を列記すれば左の如し。

日語學校教官	日人	長島岱次郎	(年俸一二〇〇圓)
同副教官	同	吉見正	(同 三六〇)
漢城師範學校教官		高見龜	(同 八〇〇)
學部編輯局翻譯官		麻川松次郎	(同 八〇〇)
仁川日語學校支校教官		岩崎原太郎	(同 六〇〇)
英語學校教官	英人	ダブルユー、ザエ、エフ、ハチソン	(月俸 二八〇圓)
同	同	エフ、イー、ハリアツクス	(同 一五〇圓)
俄語學校教官	俄人	エヌ、ビルユフ	(同 一五〇圓)
法語學校教官	法人	イー、マーテル	(同 一二〇圓)

更に參考の爲め、漢城師範學校及び外國語學校の官制を左に掲くへし。

○漢城師範學校官制(原漢文)

第一條　漢城師範學校は教育を養成する所とす。

第二條　漢城師範學校に本科速成科の二科を置く。

第三條　本科は二ヶ年を以て卒業期とし速成科は六ヶ月を以て卒業期とす。

第四條　漢城師範學校に附屬小學校を置き、兒童を教育せしむ、附屬小學校には常科、高等科の二科を置き、毎科三年を以て卒業期と定む。

第五條　漢城師範學校に左記の職員を置く。

學校長一人、奏任○教官二人以下、奏任或は判任○副教官一人、教官三人以下、判任○書記一人、判任。

第六條　學校長は學部參書官之を兼れ、學部大臣の命を受けて校務を掌理し、所屬職員を統督す

第七條　教官は生徒教育を掌り副教官は教官の職務を輔佐す

第八條　教官は附屬小學校兒童の教育を掌る

第九條　書記は學部主事之を兼れ學校長の命を受けて庶務會計に從事す

第十條　本科速成科及び附屬小學校の學課程度學部大臣之を定む

第十一條　本令は開國五百四年五月一日より施行す、

○外國語學校官制

第一條　外國語學校は主として諸外國の語學を教へ、兼て普通學を授くる處とす

第二條　外國語學校に於て、教授すべき外國語の種類は時宜に由り學部大臣之を撰定す。

第三條　學部大臣必須に應じ、外國語學校の支校を地方に置くとを得

第四條　外國語學校に左の職員を置く

學校長一人、奏任○教官四人、以下奏任或は判任○副教官五人以下、判任○書記官三人以下、判任。

第五條　學校長は學部大臣の命を承けて校務を掌理し、所謂職員を監督す、

第六條　教官は生徒の教授を掌り、副教官は教官の職務を輔佐す。

第七條　書記は上官の命を承けて、庶務會計に從事す

第八條　支校を置くときは、毎支校に左記の職員を置く。

支校長一人、奏任或は判任○教官二人以下、奏任或は判任○副教官三人以下判任○書記二人以下、判任、

第九條　支校職員の職務は第五條、第六條、第七條に同じ

第十條　學校長及び書記は學部奏判任官之を兼れ支校長及び書記は地方官中之を兼任するとを得

第十一條　教官及び副教官には外國人を雇用して之に充つるとを得、其員數は學部大臣必須に應じ、便宜之を定む、但し雇外國人の待遇は教官は奏任とし、副教官は判任とす

附　言

右官立學校の外、當時京城に於て、私立學校として、日本海外教育會の設立に係る京城學堂(私立日語學校)、及び米人アツペンセラーの主管せる培栽學堂(私立英語學校)を始めとして、佛、米、諸國宣教師の設立せる宗教學校も亦尠なからず、其況は更に別册に詳說すべし

○以上は建陽元年(明治二十九年)十月の調査に係るものなり。

編　者　識

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

評論

小説家を論ず

鷗村子

人は謂はん、是れ天下太平の迷夢に酣醉するによりて生ずるの害弊なりと。今やまた小説流行の時代は來り、隨つて賣行のよき時代となりて、小説としいへば、如何なる種類のものにても、多くの讀者を有すと聞く。さればにや新進敏腕の小説家、頻々として輩出し、春陽堂博文館の小説出版の數、五車を以て盈たしむべし。吾人は此現象を以て、未だ一種の偏狹者流に似して、文弱の流弊痛嘆すべきの事となすの愚を知らず。社會の事物は、其細大を論ぜす、万般の進歩を要す。文學進歩の如きも亦國運の隆興に伴ふて缺くべからざるの一要素なり。而も文學は國民思想の彩華なり、其煥發するや、絢爛又壯大ならんこと、國民として甚だ希望すべきの事にして、且や文學に劣等なるは。會々以て國民思想の幼稚なるを證するに足りて、万邦並立の間に立ちて耻つべきの一事なりとす。文學の華麗雄大なるは、國土山川の美觀よりも更に國光を揚發す。我邦の文學の、一象形文字を採れるが爲め、之を異邦に通ぜんとの頗る困難にして世界の文壇に文學の進歩を競ふが上に、最大の障碍となれるは、甚だ憂ふべしと雖も、我に絕大の進歩あらんには、彼等をして、我文學の美觀に隨喜せしめんは、敢て難きことにしも非ず。されば新躰詩家も出でよ、散文家も出でよ、小説家も出でよ。各其出づること多々益々多かれ。饒多の文士並び立ちて、各其筆鋒を磨して文陣に雄を競ふべし。恁て優勝劣敗の數に洩れで、其優者は勝を制し、最優者また優者の上に立ち、如斯くして遂ひには、絕好の文學、我邦に現出して、かの以太利よし滅亡せんも、ダンテの以太利は永遠に榮ゆべきが如く、またかの英國假令壞敗せんも、ミルトン、セキスピーアの英國は、終に衰ふるの期なからんとするが如くに、我日本國の生命の、文學によりて一生命を加へ來らん期、或は敢て望み難きに非ず。此故を以て吾人は今日の新躰詩または小説の流行時代を歡迎するものなり。

今日の小說流行の時代を以て、之を數年前同流行の時代に比するに、頗る見るべきの進歩あり。然れども猶未だ大に飽き足らざるものあり、吾人の爰に聊か論辯を小說に試みんとするもの實に之が爲めに外ならず。

世上の讀者小說に對する嗜好甚だ幼稚にして、最も多く歡迎せらるゝは、上は弦齋涙六の物語類より、下は講釋師落語家の講談筆記にして、此際假令意想文章共に絶大のものあらんも、明言せば迚も賣れ行くまじ。然れども嗜好の卑下なるを以て、たゞに讀者のみを責めんや、作家も亦然るをや。今や小說家を以て任ずるの文士濟々として多しと雖も、趣味高尙理想暢達せるものよく幾人かある。

小說を作る、たゞに小說の爲に作るものあり。今の多くの小說家の流之れなり。趣構に哀れなるを工み、可笑しきを工み、深刻なるを工み、美人を描き、醜婦を描き、才子を描き、愚人を描き、局面奇變多きを工み、嶄新なるを工む。然りと雖も、如斯きは多く自ら工夫し得たる、若くば剽切し得たる材料によりて、文章の熟妙輕滑ならんことを欲するに在りて、成作遂に見るべきの値ひせず、抑も小說を作るは、一小天地

を創造する所以なり。詩人を以て一創造者なりといはゞ、小說家もまた一創造者なり。彼は小說によりて幾多の境遇を創造し、幾多の人物を創造するものなり。其境遇は、神の創造したる天地間の境遇と等しき自然力を備へたるものたらざるべからず。其人物もまた靈魂あるものたらざるべからず。また其人物の動作は、靈魂ありて、某種の性質を備へたるものの動作ならざるべからず。自己の想像を以て工夫し出す小說中の境遇を天地の自然に合し、其人物を靈魂生命あるものと重んぜこんと、是れ即ち小說家が、先づ持せざるべからざるの覺悟なり。

既に小說中の人物を、各靈魂を有せるものとして重んぜんには、漫りに彼等を描くとなく、隨つて彼等に寄するに厚き同情を以てすることあるべし。小說家の同情念に熱熾ならざるべからざるは、既に前號に於て略論せしが如く、作者自ら己が小說の爲めに、人物の各に同情を寄せ、事々の各に同情を寄することなくんば、即ち其小說は乾燥無味なる、死文字となり了せん。俳優演伎の妙處は、自ら其扮する人物に同情を寄せて、而も己が其人物の必持ちになるに在り。落語家が講

談の妙處も、亦た談話中の人物の爲めに、眞に泣き、悲しみ、笑ひ、喜ぶが故に在り。以上二者と其趣きを等しうせる小說家も亦自ら小說中の人物の心持になり、其人物の爲めに知らず覺えず、泣き笑ひ、喜び悲しむことありて、即ち同情を呈せずんば、其小說何の妙によりて活動せん哉。聞說ディケンス自ら己が小說の爲に泣きたりと。作家の情致は此點にまで到達せざるべからず。

ストウ夫人が其アンクル、トムス、ケビンをものするや、こは己よりならぬ、天啓默示の小說なりと、夫人自ら他に語りし程にて、此小說は軈て靈能力あり自然力ある、一の生命を有せる小天地の創造せられたるものといふべし。蓋し如斯き所以のものは、夫人が此小說の爲めに精神を盡し、同情を燃やし、涙を濺ぎ血を注ぎたるが爲めに、靈活ある創造力の天啓を受けしによらずんばあらず。夫人の之を述作するや、終始幻影の、其念中に、眼前に、髣髴として去らず、既にして筆を結尾に投ずるや、彼幻影忽焉として去りてまた來らざりしといふ。アルコット女史の小說作の如きも、また同樣の幻影を伴ひたりといふ。事奇なりと雖も、凡そ小說を作るに當りて、其意念感想の此不可思議事あるまでに熱中せずんば、また生命ある小說を創造するに難からん。

之を概するに當時の小說家は、なほ未だ其理想に於て暢達せず、隨つて高尙ならず。吾人は理想小說の出づる尠く、また其讀むに堪へたるものに乏しきが故に、此言を爲すに非ず、寫實小說可なり、歷史小說可なり、深刻小說可なり、諷刺小說可なり、文字は作者が思想の花彩たる以上は孰れにしても皆就いて、歷然として、作者が抱持し、修養せる理想の高下の度を讀むべし。多くの戀愛小說あり、然れども高尙純潔にして而も神聖なる戀愛の理想を顯はすもの幾許かある。人事の轉變を描き、人情の厚薄を描くに、高潔なる理想眼を以て此等を觀察したる餘の表れたるものは何ぞ。其多くの佳人才子は、元祿以降文政時代小說中の佳人才子が、僅に外見を變化し來りたるまでのみ。西鶴春水が描きし人物と相離るると極めて遠からず。其人情も戀愛も、亦彼等の人情戀愛に異なること幾許ぞや。要するに如斯きは、彼等小說家の、自ら理想の修養鍛練をなすと乏しくして、其人物より、人情戀愛に至るまで、多くは之を古人の小說に讀んで學び、而して

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

未だ依然として其摸型以外に脱出する能はざる故也。古今の人情、其軌を等しうするありと雖も、既に世を異にし、文化に於て進歩したる今人の小説、豈に古人の窠套をのみ守るべけんや。且や古人と今人と、理想の上に於て幾分の進歩の度を異にする處なかるべけんや。然るをたゞ人間と人情とを、古人の小説に讀んで、明治時代の小説を作らんとするは、作者の心情や哀れむべきに堪へたり。學者の弊は多く書を讀んで、終に書に讀まるゝにあり。現今の小説家も亦、古人の小説に沈醉して、終に其虜となれるものか。小説家の最も重んずべきは理想なり。理想の高尚幽妙なるものありて後、初めて其意匠は高妙に、其文字は活動し、其同情は深厚に、其眼光は明徹なるべし。眼光明徹にして、至大至小を穿通せんことやまたこれ小説家に於て甚だ重んずべきなり。然るに今の小説家の眼光に就いて見る、其最も通せざるは女性なり。素より之を知らざるには非ず、たゞ高尚淑貞なる女性の心念を洞徹するの眼識なく、たゞ僅に通暁するものは、花街狹斜の女性なり。彼等の此等を描く、吾人の如きは、よく彼流の事情を知らざるが故に頗る其通なるに驚いて、且つ作者其人の品行閲歴に就いて、甚だ感服すると能はざるなり。彼等が深窓の令孃、教育ある女子を描かんとせば、一々筆を失敗に着けて、會々以て女子の笑ひ物となるのみ。これ彼等の稍知れる女性は、花柳狹斜の區域に限られて、而して又西鶴春水等の女性を典型とせるが故ならずんばあらず。

西鶴は女性の人情を描くに頗る巧妙なるを以て稱せらる。然れども彼の女性に高尚淑貞なるものなく、いづれもたはれたる、そは〳〵としたる女性にして、亦花柳狹斜下品の流のみ。西鶴も亦清高なる女性を識らざりしもの歟。巢林子も亦女性の人情に妙なり、然れども彼等西鶴の女性と大なる懸隔あるを見ず。たゞ時に稍上品なる女流の人情に穿ち得たる處あるは、蓋し其妻の賢貞淑貞なりしといふによりてならん歟。社會の人情を働かすの力は、多くは女性に存するが如くに、小説の雅韻も亦、女性を微細に捉へ來らずんば、其人情に所謂氣が乘らず、乾枯したるものたらん。又下品の女性を以て骨子となさば、其小説の人情は即ち下品ならずんばあらず。清高にしてまた教育ある上品の女性を識るの眼識なき小説家、如何で高尚純潔なる小説を作し得んや。天下の男子、女性の人情を解せざるが故に、政治上、會社上、其他下般の人

事上の、活動の奥底を洞察すること能はずして、其觀察識見に、甚だしき誤謬を生じて、而も覺らざるは、今日の通弊なりと雖も、人情人事の觀察活寫を以て自ら任ずる小説家にして、よく其眼光の各種の女性の人情に洞徹せしむる能はざるは、甚だしき缺點なりといふべし。

たゞに女性のみならんや、小説家は凡ての人間を知るを要し、彼は賢人を知り、才物を知り、大人を知り、小人を知り、善人を知り、惡人を知らざるべからず。其各種の人間を描寫せんとするや、自ら其各々の人間の度量性質特點を有せる心持ちを實歴せざるべからず。彼は大人小人其何種のものを問はず、下駄を穿いて、彼等が腹中に踏み入るの識見なくんばあらず。小説家たるも亦難いかな。小説は遂に天才者、達識者の事業なり。然るを既に人間なるもの丶概念にだに通ぜず、人事世故に經歴なき乳臭の徒にして、豈によく眞に靈活ある小説の天地を創造することを得んや。故に思ふ大人小人、賢女痴婦の胸中に細に分け入りて、之を活寫するの靈筆を有せし、彼沙翁の如きは、またこれ一個雄大の達人なるかなと。觀じ來りて、吾人の理想鏡を以て、今の頻々たる小説家を照し見るに、己が小説の爲めに、心を勞し、身を勞し、血を濺し、涙を流すもの、極めて稀れに、到底彼等は、昔所謂戯作者の名を脱すること能はず。吾人今小説家の爲めに謀る、文に妙に、想に秀づべきは素よりの事、されど先づ退いて、同情の念を熾にせよ、理想を高尚にし、達識を備へよ。又人間を學び來れ、殊に女性を學び來れ、人情の極微を穿つの明を養へ、此等に就ける充分の修養ありて後、吾人は始めて眞の小説家あるを見ん。

雜録

巖本嘉志子君の靈に告ぐ

端なくも無情なる去年の今日とはなりぬ。さらぬだに余をして折に觸れ、物にあたりて、風木の嘆に泣かしむるものあるを。噫吁、去年の今日！、春とは言へど、餘寒は尚ほ痛く峭峻として、膚を刺し、片われ月のかげは凍天に冴え渡りて、物さびしく、萬木尚ほ枯れて生氣なき、城北染井の幽界に哭

せし、去年の今日！、噫吁往矣、往矣。
余は今日事を以て、此地に來れり。疇昔を追懐して、正さに斷腸の思ひあり。圖らざりき、余が此の追懐は更に悲哀に導かれ往かんとは。偶然巖本君、此日余が此地にあるを知り、手書を添へ、國喪中により、記念會を催ほさゞる旨を述べて、新刊『小公子』一部を惠贈せらる。余は忽ち淒然として鬼氣に魅せられ、魔界に誘拐せられたるが如く、殆ど茫然自失せんとせり。請ふ余をして當日を語らしむること勿れ。余は今や之れを語り出でん程に、餘炎猶ほ未だ冷却し得ざれば也。唯只兀然として獨り瞑目しつゝ、靈を第三の天に驅りて、思ふともなく、思はざるともなく、

　ともすれば無しと忘れて亡き君に
　　言つてましとおもひつるかな

またつくぐ\鄕友なる松井蕭伯のものせられたる、此書の表紙、口繪などの勁雅艶麗なるを見つゝ、

　君ましてともに見まさば如何ならん
　　ゑさへとぢさへ面白きものを

かくて胸せまり來て、男子ながらも瞼をせきとめかねつ、

　さきにほふ君が言のは如何なれば
　　なみだの種と今はなりけむ。

また余が曩日に三番町なりし君が寓にともなりし頃、親しく此書の原稿をものしたまひし其の面影は、髣髴眼前に浮び來りて、幽明、所を異にすとはおもはれず、

　文机にもたれて筆をとりませし
　　そのおもかげはなほのこりつゝ

噫吁、君よ、余はもはや言ふ所を知らず、只切に望むらく、君が靈天津使の翼に乘り、漠々たる蒼天を破りて、浮世の夢に迷へる余が上に降り來たまいてよ。

二月十日君が眞君の令兄なる
横濱紅葉坂の井上家の高樓に於て
友人　湯谷磋一郎誌

小公子出版成るや、正に賤子女史の一周年忌に際す。由つて遺族之を知人の間に頒つて、女史の紀念となす。時に湘煙女史中島俊子氏、此遺稿を繙かんとして一詩あり、賦らる。

如今君去在何邊　腸斷春風二月天
誰讀白梅玉樹底　幾回掩涙讀遺篇

妙諦偶語

曲浦子

○妙は至微の際に在り

至つて大なるものあり、其至大中の至つて妙なるものは、而も至大の際に在らずして、却て至つて微なるものに存す。山嶽江海は至大地上の至つて大なるものなり、鳥や虫や花や草や、其間の至つて小なるものなり。然れども吾人の坤上觀ずる美妙のもの、彼の至大なるものに非ずして、此至小なるものに在らずや。大人物の偉業は天下の壯觀なり、されど彼の品德操行に於て、頗る妙致を覺ゆるもの、實に其稚氣に在り。其花に心を寄せ、嬰兒に情を惹くの邊に在り。即ち彼大人に於ては至微至小なる行爲の際に在り。其業の至大なるものは、其心を勞し身を勞し、工夫慘憺の結果なり。其行の至微なるものは、不知不覺の間に發す。不知不覺の間の行蹟は以て人の素德を見るべし。故に大人物を見ること、其至微の行爲に於てして、頗る彼が品德の妙を知る。大人物はまた時に小兒の如し、而して其小兒らしきの邊は即ち大人物に於て妙とすべきの最なり。此說をなす、事業に於ていふに非ず、品德の上にいふ。されど事業なるもの、至大の觀ありて、其實至小なるものあり、至小の形ありて、其實至大なるものあり。大といふ勿れ、小といふ勿れ、達人は百事の妙趣を察す。」同人と談じて、小說を作る、那邊か最も難しと疑義せしことあり。予素より小說を編むことを知らず。然れども竊に思ふに、これ結構の壯大奇巧なるに非ず、文章の輕妙流麗なるに非らず。たゞ克く、眼際を至微の間に馳せて、此處人情の至妙てふものを捉へて、之を寫すことに在らざるか。意匠文字巧に至微の言動に及べば、小說中の人物は活動し、文字よく生氣を帶びん。

天下の事皆其動くや、其發するや、其休するや、之を促すこと至微の際に在り。故に曰く妙なること至微の際に在りて存すと。

○寡言微動の妙

嘗て園州の景清に扮するを見る。劇曲中、最も吾人を感動せ

しものは、彼景清が夜頼朝の旅館に忍び入りて、將軍を刺さんとして、重忠の爲に看破せられ、計諜遂げず、重忠の義心によりて、圍を開いて、悠然長刀を杖つき、低唱花道にかゝる、所謂腹の在る處にて、言ひ難きの妙味ありたりき。而して後幕に景清縛に就きて、其身上を喋々物語り身振苦勞多き段に於ては、却て團州が妙技の勞を覺えざりき。凡そ花を見るにも、其爛熳として滿開せるよりも、中に馥郁たる芬香を罩め、花頭僅に白を點じて、一瓣やうやく唇を開かん計の程、甚だ美しく、又盛開の時にも、万朶滿花の樹下に仰立せんよりは、之を遠山に懸れる白雲と眺めんこそ、いともゆかしけれ。八朶の芙蓉峯は、佐保姫が、霞の衣打着せたる時、最も壯美なるを覺え、美人の、扇面を以て其半面を蔽へるは、更にゆかしきものなり。物は悉く露呈せざるに美しく、言葉は、細に辯述せられざるに宜しく、中に万分の氣を籠めて、外に一二分を露したる處妙に、沈默無爲は更に妙なり。神人は無爲にして化し、賢君は、多く綸言を出さず、手足を勞する少くして、萬民其化を仰ぐ。多く言いひて、人を信ぜしむる能はず。多く動いて人を動かすと能はず。是に於て平小人は勞多くして功尠し。近く例を取る女子の喃々たる情話は、眉斧の輕動に如かざるに非ずや。無爲微動の動や頗る大に、沈默寡言の言や頗る大なり。

小説
磯馴松

紫琴女史

上

ゲエーブツ、あゝ醉つたぞ〳〵眞實に好い心持に醉つて。斯う醉つた時の心持は實に何ともいへないや。嬶が怒らうが、小兒が泣かうがサ、ハ、、、ゲエーブツ、あゝ好い心持だ。こんな心持は天下樣でも恐らく御存じはあんめえ。チヤアンと何も角も御存なのは、お月樣ばかりだ。お月樣てえ奴は實に憎くない奴よ、おらが彼處で以て飲でる時アどうだ甘だらうと、いつたやうな顔付で以て見てござる。いざ歸うとなると、チヤアンと外へ出て、先に立つて歩行てござらア。いくら醉ても溝へ落こちないのは、全くお月樣のお蔭なんだ。全くだ實に有難てえや。其上斯して家まで送つて下さつたからッて、嬶アに告げ口一ツなさらうぢやなし、送くり込んどいてずん〳〵と西へ〳〵とお歩行な

さる。實に其處は大氣なものさチ。たまにやァ一ぺイお上んなさいと申上たいんだけれど、下界は嫌だと見向きもなさらない處がえれえや ハヽヽヽ。いやえれえといへば今晩の塲ァの權幕も亦えれえ事だらうよ。あれでも素はまんざら話せねえ女でもなかつたんだけれど、世帶を持つて小兒が出來てからといふものは、其處は女の淺間しさだチ。お前さんはなる口だけに、氣が捌けてゝ嬉しいよと、彼奴め背中を叩きァがつた事を忘れてサ、そんなに飲んぢやいけない、あんなに醉つちやァ濟ねえと、毎日日にちおれを意地めやァがるんだ。眞實に女子といふものは仕方のないものさチ。まんざら素白い素生でもねえ僻に、男の身躰は、酒で持つんだてえ事を、忘れやァがつたから、まるツきり話せねえや。オツト危險ねえ、すんでの事溝へ落つこちる處だつけ。

空を仰ぎて

ハヽヽヽお月様が笑つてござらァ、あんまりおれが夢中になつて愚癡をこぼすもんだから。

獨言つゝ月もあかしの町外れを、一歩は高く一歩は低く、ひよろり／＼と來かゝる男、煮〆たやうな豆絞りの手拭、だらしなく肩に打掛けて、仕事着の絆天も、紺といはれしは、いつの昔の事やらむ。年月熟柿の香に染みて、夜眼には鳶とも見紛ふべきが、片肌はぬげかゝりて、今にも落ちさうなるには心付ねど、流石生醉の本性は違はでや、是も人の住家にやと、怪まるゝあばら屋の門邊にて立止り、

此所だ／＼逃げへねえ／＼、いくら醉ても、此家を、覺えてる處がえれえぢやねえか。おやァお月様、御免なさいし、毎度どうも有難うがす。

振向きたる儘、さらでも倒れかけし表戸に、ドサリ身を寄せ掛たれば、メキ／＼と音して戸と共に轉げ込みし身を、漸くに起して、痛き腰を撫でながら、

チヨツ危險ねえや、こんな戸を鎖しとくもんだから、チイお千代火を見せて呉んな、まるで化物屋敷へ踏ン込んだやうだ。

呼べど答へなきにニタリと笑ひ、

ウヽ山の神はもう寢ツちまつたんだな、先は安心上々吉の首尾だ。又遲いとか早えとかいつて、嚴しい御詫を喰らう

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

もんなら、折角の輿も醒めて、翌朝また飲直しと出掛なくッちやアなんねえのだ、ヤッコラマカセ
と戸を飛越えて、
南無八幡ぢやアなかつた、山の神大明神、此醉心地醒させ玉ふなかハヽヽヽ
輿に乘りて拍手一ツ二ツ叩くを、前刻より寐た振して聞居たる女房、堪へかねてや、かいゝゝ、かんばりたる聲張上げ、
何だよお前今頃に歸つて來て、何を面白さうに獨りで饒舌てるんだ。もう疾くに最終滊車は通つて仕舞つたよ。早く這入てお仕舞な。馬鹿々々しい、近所合壁へも聞えるや。
小言きゝながら手暴く枕もとのかんてらひきよせて、マッチも四五本氣短く折り捨たる末、漸くに火を移せしを見れば、垢にこそ染みたれ、此家には惜しきほどの女房なり。
いや有難てえや、早く這入れとは、神武以來の御深切だ。實はかうなんだ、餘り閾が高えもんだから、夫れでつい躓いたのよ。ぢやア眞平御免なさいやしかハヽヽヽ
うつゝたわいもなき儘に、上り口といふも一間きりの、框へペタリと倒れたる儘、はや正躰なき樣子に、女房はいとゞぢれ込みて、ヌッと起出、其枕を蹴らぬばかり頭の際に突立ちて足踏み鳴らし、
是サお前そんな處へ寐ッちまッて、どうする氣なんだえ。しつかりおしよ、今に落ッこちらアな。そして戸はどうしたんだえ、明けッ放しぢやないか。
ムニヤ〳〵〳〵。
眞實に仕方がないねえ、まるつきり夢中なんだもの。
ふしやうぶしやうに、庭に下りて、外れし戸を漸くに建合せ、竿竹にて兎も角も支へ來り、上りかけに態と強く夫の足に突當れば、
アイタヽヽ痛てえや、何をするんだ。
氣味よしといはぬばかり、女房は冷やかに笑ひて、
怪我だわな。こんな處へ足が出てやうとは思はないからね。
少しきッとなりて、
何かえお前、今まで仕事先に居たのかえ。
うるせえや、知れた事を聞くねえ。
何だとえ、知れた事だッて。エ餘ツまり馬鹿におしでない。何處の世界に、今まで仕事させとく親方があるもんかね。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大方又、何處かで飲んでたんだらう。
だから知れ事だと、いふ事よ。
女房は口惜しさうに夫の顔を見て、鋭き眼を涙に曇らせ、
よくまアそんな事がいへたもんだね、餘ンまりで私しやア
ものもいへやアしない。――ようつもつても御覧、お前の
飲んだくれも久しいもんだが、お前は何かえ、此間中私
しと松とは、どうして過してるとお思ひなのだエ。私しが
少し宛でも錢儲けする間は、夫りやアどうにか斯にかして、
母子がお粥でも啜つてるんだ。だが此節は私の内職も隙だ
から、ちつともお金の工面は出來やアしないし、夫れに相
變らずお前は飲歩行てばかし居て、ちつとも家へお金を入
れてお呉れでないから、私やア此十日ばかりは、御飯も喰
べたり喰べずぢやないか。夫をいやほど知つてる癖に、な
ぜ少でも持つて歸つてお呉れでないのだえ。あれ程お前朝
頼んどいたぢやないか、夫れにいつも同じ氣で、今まで他
處で飲んでるなんざア餘りお前ひどいぢやないか。私や松
を女房子とお思ひではないかえ。
いひかけて傍に寐させし子の、十歲には小きが寒さうに、母

親の古袷一ツに包まれたる寢姿を見て、急にホロリとなり、
是御覧お前、たつた一枚の蒲團までも曲げて仕舞た位なの
だから、もうどうするものもありやアしないわね。だから
お前二人共まだ朝飯を喰べた切りぢやアないかよ。夫れに
今頃文なしで歸るなんざア、夫りやアお前人間に出來る仕
事なのかえ。私しやアまだしも、此子を可愛いとお思ひで
はないのかえエ、是お前、龜さん、龜さんツたら、お前は
此子を見殺しにする氣なのかえ。
前刻より妻の小言を添乳に、うとり〳〵と眠り居し夫、此所
に至りてブルリと身を顫はせ、
あゝ寒いや。
とクルリ彼方へ寢返りうち、
チヨツやかましいなア今更いつたつてどうなるもんかい。
大抵にして寢ろい。己れなんざアいつも一食だア。
女房はいとゞぢれ込みて、夫の肩へ手をかけ、力を極めて此
方向かせむと力めながらさも口惜さうに、
何だとえ、も一度いつて御覧、いくらお前でも、よもや二
度とはいはれやアしまい。お前其一食が私を泣かせる原因

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

なんちやアないか。お前が三度々々に御飯でさへお腹をふくらしてお呉なら、こんな思ひはしやアしないわね。お米よりきやアお米の水の方が、いくら高直くつくか知れやアしない、よくも夫を自慢らしくいへたもんだ。お前は一食でも二食でも、夫れはお前の好きでするんだ。私と松は明日からどうしてお呉だえ。ハツキリと聞かしてお呉れ。私もお前の返答によつちやア、乾度思案を極めなくツちやアならないから。

如何にもして夫の睡を醒させむと、愈押へし手に力を入て、其肩をゆり動かすにぞ、流石は男の我を悪しとは知りながら、

うるせへえや。ふざけた眞似をしやアがるな。

大喝一聲矢庭に起上りて、女房の横腹を丁と蹴り上げ、おのれは其儘子供に掛けたる古袷の袖引攫みて、肥大なる身を其儘に横たへむとせしに、子供ながらも空腹に眼敏き松の介、是に睡りを醒されて、薄暗き燈に父を認め、

おツかア、ちやんはもう歸つたね。おらアお米を買つて來やうや。

睡き眼をこすりながら、むく〳〵と起出る、子の可愛さは窮れねど、腹立つ際とて、夫への面あて、わざとも、ぎだうに突遣りて、

おツかアは知らないよ、ちやんにおねだりな。

でもちやんは寐てるぢやないか。

いゝから起してお遣りよ、耳のはたで大な聲をするんだよ。

唆かされて正直に、父のからだに取付きつ、

ちやん〳〵お飯をお呉れ、お米を買て來るんだからヨー。

幾度か呼べど答へもなき出して、再び母の袖にすがるを流石にも振切りかねて、我知らず松之介を抱き寄せ、

仕方がないからもう一寐入しなよ、今に夜が明けたら、おツかアがどうにかしてやるよ。いゝ見だ寐なよ。

と脊を撫づれば、いつしかすや〳〵泣寐入る子と、夫の寐顔を見くらべて、深くも思ひに沈める内、多くもあらぬカンテラの油は茲に盡き果て、ハタリ火の消えたれば、三人の寐姿は、闇に葬られたれど、夜もすがら苦しげにうめく妻の太息と、さも快げなる夫の鼾は、高う低う屋の棟に響きて、可愛や寐た間も魂は、米屋の軒をめぐる松之介の夢醒むかと危ぶまれぬ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

片々録(二)

如雲

◎甲州の人某の曰はく。數年前、故ありて直經一尺二寸の水晶を見たり。之を手に入れんとして遂に相談まとまらざりしが、後にて聞けば、大抵、三千圓以上の價格あるものなりとぞ。御嶽の精靈となり居る水晶は直經一尺四寸ありとぞ。

◎信玄の世には黄金活鼠判四十万兩、外に尚ほ四十万兩ほどの準備金ありしとぞ。方今の價格にすれば、五六百万兩なるべし。彼が甲州に立てこもりし所以も、軍事公債を募らざりし所以も之にて知らるゝ也。

◎西郷南洲も、奧向の改革には弱り果しとぞ。其藩の改革の時、奧御殿の老女三十人ほどに取まかれて八釜しく言はれし時には流石の南洲も閉口せしとぞ。

◎兩本位となりたる時は兎に角、金貨國と交通隆んなる今日、金貨本位となり行くは自然の大勢なるべし。

◎只徒らに漢法醫を輕蔑する莫れ。西洋醫の用ふる藥も必竟は補劑にあらずや。左らば、葛根湯のエキスを用ふるとなれりとて必らずしも、葛根湯を輕蔑すべからざるに非ずや。

◎春の木の芽だちの頃は自然に頭腦も惡くなるもの也。腦痛の人は之より用心せざる可らず。

◎東北の開け行くと、今分にては、北海道よりも晩きが如し。到底は、東北に其名士退隱して、勢力を蓄積し、子弟を涵養したる後にあらねば、大に煥發すべき見込もなし。

◎惣べて一ヶ地方の開らくるは、東南先づ開け了りたる後に、初めて西北に手の着くもの也。誰も日當りと暖氣とを好むものゆゑ致し方なきと也。

◎地を撰むには、極便利の所か、極不便の所を撰ぶべし。極不便の地には將來便利なる交通器關も出來べし。中半途の場所の行々は大抵分り居る、あまり望少きもの也。

◎年末年頭の機一轉の時は、何か變事多くあるものなるが、今年は格外に死者の多かりし。之れ何よりも悲きとなり。然し、本年はまだ／＼死ぬ人の多かるべしと思はれて、更に悲し。

◎世故の經歷は大切なるとなれど、經歷の爲にいぢけ、引込思案にのみ流るる樣になりては、最早や人物の發達は止まる也。其の根源は、我身構をする私利の念より發する也。

時文

○感化事業の發達　留岡幸助著　敎文館版

留岡幸助氏多年監獄改良に志あり、久しく北海道集治監に敎誨師たりしが、曩に獄事制度感化事業視察の爲、米國に遊び昨年歸朝後、三好退藏氏等と共に感化院設立の擧を企て、其事業今や將に其端を開かんとするに際して、爰に其著『感化事業の發達』を公にす。此書は正に是れ氏が感化事業運動の爲めに第一の呼號たるか。感化事業の精神と其方法、紀元前の小兒に對する社會思想と紀元後に於ける救兒事業の濫觴、獨佛米に於る救兒事業、英國感化院の發達、惡少年の發生、少年犯罪者に對する文明國の法律、我邦少年犯罪者に對する刑法の沿革、感化院と監獄の關係、感化院建設に關する方案等常次を逐ふて說述し、社會事業に志あるもの宜しく之を一讀すべきものなり。

○花紅葉　三文學士合作　博文館版

鹽井雨江、武島羽衣、大町桂月の三文學士は、赤門文士中、和文學專攻の秀才なり。皆美文に長じ、韻文に巧みに、各其特長を有す。この三文士日頃作爲する所の美文韻文、爰に蒐集されて、『花紅葉』の書となり、實に花あり、紅葉あり、彩觀見るべし。但し實の多少は知らず。

○近世文學史論　內藤湖南著　政敎社版

內藤虎次郞氏は『日本人』派の一文士なり、昨年筆を大阪朝日に執るや、『關西文運論』の述作あり、これ即ち今の『近世歐文學史論』なり。德川執政以降三百年の文學を論して、儒學醫學、國學より、和歌詩文、國史神道を兼ね論じて、頗る丁寧、識見該博を以て稱すべし。附錄に地勢臆說、日本の天職と學者、靈道の一大疑問あり、皆讀むべし。

○敎育壇　第一號　開發社發行

開發社の敎育論者諸氏は、其敎育時論を以て滿足すること能はずして、今又新に敎育壇なるものを發行す。時論は以て敎育學の時事を評論討議し、壇は以て敎育學に關する學說を載せんとするものなり。

○寫心箋　水野五十二郞考案

寫眞は人の容貌を寫すのみに止れば、爰にまた心を寫すものなくてやはとて、寫心箋なるものを考案するものあり。人々の嗜好長處欠點志望等を記載する樣に製したる一葉箋にして、一寸面白き趣向なり。

○小　猫　村井弦齋作　春陽堂版

『小猫』の世に持て囃さるゝも久しいかな。四五年以前に在りて郵便報知新聞に現るゝや、一時世上の評判となりて、爰に弦齋の文名を成し、また昨年中報知新聞の日曜附錄として出づれば、多くの婦女子をして、一週日の後を待遠がらしめ、今また此美本と成りて、出版せられては、正物の小猫を可愛がる的の人は、また此小說小猫をも可愛がるが多からん。房州一流士の子の立志、其不羈獨立、其偉業、一少女の戀情芳志其美勵、博士の秕心、代議士の高名、描かれたる亦が、如何に不自然を極めてあらんが、これは一向搆ひなし、五百餘頁の大文章一の涟滯なく、また輕妙婉轉にして、光景の變轉の妙、讀者を飽かしめざる所、弦齋も亦一の文に雄なるものか。弦齋の作、小說といはんよりは、物語なるに過ぎずと雖も、いつもながら趣搆に巧に、また考案に盡きざるや驚くべし。

○新小說　第二卷第二號　春陽堂版

『從五位』は漣、思案の合作に成れる一喜劇脚本なり。此脚本果して、場に上ぼせ得べきや否やは知らず。其趣搆の行間違また行間違を重れたる案より人を動かすに足るものなく、また妙作を以て稱すべからざるも、其滑稽、をかしみは、讀者をして笑を催さしむるに足る。附錄として嵯峨の屋の『落花村』、露伴の紅葉鷗外思軒等の批評あり。

○異り種　柳浪作　春陽堂版

各某國公使ライトの圍ひ者にお露なるものあり、其子にお英あり、ライト歸國後

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其身を沒するや、跡に日本に殘されし、お雪は、お英のあるにも構はず、役者狂ひをなして放埒を極む。爰に又お雪の知り人高利貸高山柳齋の息子に、狡智に長けたる一少年靜悟なるものあり。彼はお英のあひの子であるをも擇はず、其美色に心を掛け、之を掌中のものとなさんとし、且は父の慫慂と謀りて、お雪の家產を奪はんとせり。詭騙に詭騙を盛し、終にお雪を逐ひ、お英を掌中のものとなせば、思ひきや、其家產は既に破滅に近づけるに一驚したれども靜悟なほお英が一万圓と價ひすべき金剛石の腕輪を所持せりと思ひかつは、其美色に迷ひ居りしに、金剛石を入れたりと思ひし包物の開けてくやしさに失望し、爲に懐妊中のお英を棄て、お英は僅に殊勝の下女お山に介抱せられ居りしも、お山また俄に死し、爲にお英は其子と共に窮民乞食の群に入り、靜悟を求むれども得ず。五六年の後ゆくりなく彼が姿を認めて之を求むれば、爲に殘虐にも逐はれ、終に公使の息女乞食として餓死の最後を遂げたりといふ一の悲慘なる譚なり。相變らず、柳浪が深刻なる想文の伎倆の顯はれて、讃むべきの貢作なり。

片々

◎各種の教育令　女子教育振起の必要を呼び來ること近に盛んなるを加ふ。されば今後數年にして、必ずや多くの高等女學校新設にかゝるゝものあらんか。

◎國民新聞は　以上の現象に對し言をなして曰く、女子教育の聲次第に高まらんとするが如し。私立女學校設立の計畫、あちこちに唱せらる、其教育方針は概して德育を主となす、蓋し其理由は理由といはんより寧ろ一種の反動的勢といふの當れるに如かず。

◎小學教員の給料　小學教員待遇の道漸くに開け、嚮には年功加俸等の事あり、今また勅令第二號を以て全國小學教員の給料を一定し、高等小學正教員男十圓女八圓、准教員男七圓女五圓、尋常小學校正教員男八圓女六圓、准教員男五圓女四圓を以て月俸の最低額を規定せらる、今日の小學先生、其受くる處の月俸は、以て衣食の料に足らざるもの多く以て、學界の一慨嘆事となすべかりしに、今日の勅令は僅に其窮乏の幾分を救ふに足らんとす。然るに現時と雖も小學先生の給料の名實相伴はざるもの多しといふに、さる事實の今後猶存在せんには、この勅令も亦無効に歸せん。この勅令の實施よりして、市町村は其學事費用の多額を要するに至るべきが爲めに、爰に隨つて給料低廉なる女教員を聘用するを多きを見るべく、爲に女教員の需用必ずや多きを加ふるなるべし。

◎女德の衰頽　女學生の腐敗などいふ事の多く新聞紙に現るゝ時節は、即ち女學の隆盛なるときにして、また政治上等に出來事の少き太平の時なり。男子徒然なれば、女の惡口でもいつも見ると同趣。

◎世界第一の美人　其名をオテロといふ。西班牙の校書なり。

◎東西婦人の差違　さて『世界の日本』に出でたるものなり、面白ければ左に掲ぐ。

過日の事なりとか東海道滊車に乘りて歸京したる人あり、同車中に一の貴婦人あり盛粧美服したるに係らず、襟のかへりたるを知らず、甚だ美觀を損ひて氣の毒に堪へざりしが、同車の日本婦人三人ありしも、皆な目ひき袖ひきて私かに笑ふのみにて、一人も忠告するものなかりき。已にして滊車、大船に來るや、一人の外國貴婦人あり、是れまたあたりまばゆきまでに、美服してありしが、やがて席につくや間もなく、右日本貴婦人の姿に注目し、莞爾やかに話をしかけて、手輕く婦人の背に手をまはして、其襟のたれたるをなほしやりしを見たり。日本人は其同胞が見にくき風あるを見て笑ふに、外國婦人は却りて之をかばはんとす、日本の婦人をたゞ笑ふもの、泣くもの、言ふことをきくものに育てんとする教育法の改めざるべからざるや、之にても見るべし云々。

◎結婚離婚配偶數　明治二十七年度の統計によるに、同年中全國結婚數は三十六万一千三百十九對、人口千に付結婚八、六四の割。また離婚の數は十一万四千四百十六對なりしと。されば結婚三餘につきて一の離婚ありし譯なり。また二十七年末配偶數は七百六十八万一千百四十五對、人口千に付一八三、七〇の割合なりといふ。

◎全國男女人口　廿七年十二月卅一日の現在人には男二千百十二万二千八百九十九人、女二千〇六十九万〇三百十六人總計四千百八十一万三千二百十五人なりといふ。

よな／＼の月になれゆく衣手は
うらなつかしき物にぞありける

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時報

◎孝女受賞

賞狀

富山縣富山市中野新町尋常小學校生徒

熊野みさ

明治十八年七月生

資限以て人に接し又能く幼者を慈愛す其母校に在るや級長に推されて能く其任務を盡くせり家庭に於けるも亦能く家政の勞に服する等其母を助けて且つ之を愛護して措かず右は殊勝の行爲と認め小學校獎勵規則に依り一等賞を授與す

明治三十年一月日

富山縣知事正五位勳四等　安藤謙介

◎女齒科醫開業　故齒科醫高橋富士氏の長女孝子は、醫術開業試驗に合格し、齒科醫學を高山齒科醫院及び伊澤信平氏に就きて學び、今回日本橋區本町二丁目廿二番地に於て開業したりと。

◎甲津學舍の點茶科　日本橋區小網町甲津學舍にては、近來茶道禮法の大に頽亂せるを慨き、今度女生徒に對し點茶の一科を設け、宗匠をして教授の任に當らしめ斯道の改良を圖ることゝなせりと。

◎組合教會の女傳道師

組合教會の女傳道師は一月十九日神戸教會に於て冬期講習會を開けり。會する女傳道師は左の如しといふ。

前田千代(多聞)	加藤みれ(京都)	八谷ちせ(高知)	加藤ふさ(大阪)
國府きく(伊豫)	森山のぶ(伊勢)	辻　ひさ(岡山)	畑　もと(伊豫)
上村むめ(丸亀)	村山みち(四宮)	森本らく(明石)	佐藤わさ(福知山)
小野やす(兵庫)	鹿ノ木つや(今治)	柴田こと(廣島)	小寺てる(神戸)
堤　まづ(新潟)	有岡うら(綾部)	熊野こま(熊本)	鹿山てい(京都)
八木てる(神戸)	山室たか(鳥取)	片岡つや(熊本)	越後やす(三田)
楢山えん(前田)	西浦てつ(神戸公會)	大森つみ(尼ヶ崎)	

◎第二のジョアンダーク現はる　比列賓獨立軍の將官士リザルは客歳の戰に敗れ、西班の手に捕へられて、酷にも銃殺の刑に處せられたるが、其妻は亡夫の遺志を繼がんとて獨立軍に加盟し、イマスの陣營に投じ干戈を執りて軍に花を咲しけるとぞ、されば獨立軍は此未亡人を、我黨のジョアンダークとまでに歡迎して、崇敬を極め居る由。

（讀賣新聞）

◎婦人議員候補者　米國ホバート夫人は、華盛頓選出元老院議員スクアイア氏の後に繼で、已れ自ら議員たらんと欲し、頃日選擧競爭の舞臺に現はれ盛に運動を始めたり。同夫人は社會論壇の雄にして、曾て數部の著述を爲し、又屢々演説をも爲し、殊に婦權擴張には頗る盡力したることあり。今回の競爭にもまた到る處に急激の議論を試み、痛く米國現今の狀態を彈斥し、其の英國化したる點に就き、慷慨悲憤、案を叩て喝破する樣、又夫人は經濟上の意見として、各銀行家の行爲を非難し、毎に米國の經濟を攪亂するものは、全く今日の銀行家に在りと絶叫せり。然れども一般の選擧者は多く夫人に同意を表せざれば、多分は當選覺束なからんと。

（東京日々新聞）

◎英國の女子參政權　英國上院は今日多數決を以て婦人の參政權を許諾したりといふ。

◎裁縫學校新設　本年一月より東京麴町區飯田町同道方耶蘇教會の内に一裁縫學校設立せられたり。校長は醫學士川口榮之進氏、教師には正當の免狀を有せる女教員並びに其他の西洋婦人本部婦人數名なりと。

◎女子高等師範學校生徒募集　本年四月女子高等師範學校に於て撰科生五人の入學を許可するよしにて、志願者は來三月廿五日までに同校に出願すべしとなり。

◎一夫一婦及海外醜業婦取締請願　婦人矯風會會員六万餘名の連署を以て此程其筋へ呈出したる、一夫一婦の請願及海外醜業婦取締請願の二件は其筋にて印刷に附せられ、議員に配附せられ、不日帝國議會の院議に附せらるべしといふ。

義捐者諸君に敬告す

此度府下巣鴨村六百五十六番地通稱庚申塚に宅地五千六百坪、建家(西洋館及日本家双方二階造)一百二十坪を購入致し來る四月新學期より移轉、尚ほ追々增築可致計畫に御座候。類焼后一周年にして此の良好の場所を得候事、偏に諸君仁慈の致す所たり。謹で敬告し併せて無限の謝意を表す。

明治三十年二月

明治女學校

新入學希望者に告ぐ

來る四月以后府下巣鴨村に新校舍を設置し、新入學を許可す。此地、本郷區を距ると遠からず、通學の便なきにあらずと雖ども、可成く寄宿篤學を可とす。入校希望の人は、來る四月十五日迄に申込まるべし。

東京麴町區下六番町六番地

明治女學校

明治女學校義捐金募集

第四廣告

金五十一圓六十二錢也
金十五圓也
金十八圓也
金十八圓也
金十圓八十錢也
同前
同
同
同
同
同
同
同
同
同
金二圓也
金三圓也
金五十錢也
金二十錢也
金五十錢也
金九圓六錢也
金四十錢也
金三圓也
金一圓也
金一圓也
金一圓也
金一圓也

村田たき子殿
角田與平殿
荒たき子殿
三品きよ子殿
木下久子殿
久保こゆき子殿
佐藤すけ子殿
下山とめ子殿
瀧田こう子殿
丹羽こと子殿
原澤子殿
羽生とめ子殿
増田ふき子殿
牧たけ子殿
三浦こう子殿
成瀬隆三殿
高杉幸子殿
廣井ゆい子殿
大はますを殿
黒澤ちやう子殿
廣島女學校有志者
同前日曜學校
廣島有志者
淺尾忠子殿
丹治ふか子殿
門馬尚經妻殿
林田ふみ子殿
鈴木經勳殿

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

自由黨々報

第百二十六號

明治三十一年二月十日發行

黨論　松方内閣と進步黨の關係……眞下珂十郎

論說　公衆の衛生に繋はる重要問題……田中賢道

雜錄　歌二首……道池凡見
光陸離(天)……關亮
何の器乎……
冷語……冷笑子

世界　○朝鮮○支那○露西亞○佛蘭西○墺地利○伊太利○土耳古○西班牙○英吉利○合衆國

黨報　○代議士總會○部會○栃木第二區補欠選擧○武相支部大會の決議○關東自由會臨時大會○院外集會○自由俱樂部員改選○自由俱樂部の檄○德州代議士と千葉縣の入黨者○美作支部辭職勸告○村松氏歸朝○永田一二氏の訃音

時事　○雙劍○賛美歌○誰罪誰實○松方内閣の紀念碑○甲東以來の手腕○人才登庸の弊○抱負の未來記○假發許○本性○有限と無限○闇○進步黨遂に死す○與奮劑○一考を要す○賞節○選擧區の激昂○本店○鐵血男兒○狂者●新刊紹介●時事日記

帝國議會　○貴族院議事一班○衆議院議事一班

芝公園五號地二番

自由黨々報局

海國少年

第二年第二號

明治三十一年二月十五日發行

●口繪●大勳位威仁親王殿下の御肖像●弘化年間渡來の米國軍艦の圖●論說●肝付大佐の海軍士官の眼に映ずる將來我國民教育●史談●勝伯の西洋形造船の由來●日本最初の海軍教師●ベルスレーケンの海輪●十六世紀に於ける西班牙艦隊●松影●大航海者バスコダガマ●楓談●英傑逸話大久保甲東の三言○横井小楠二日の議論す○英人佐藤○岩瀨忠震の狐道●小說●墺地利兵士のなりの果なにがし譯●逆涙直下の孤舟●奕餘●砂けむり涙影●文苑●重野文學博士○向山黄村○詩及び勝伯爵○岩下子爵○加藤さし子●寺田望南○杉山天右氏等の詩四郷貞子○田中稲彦氏等の和歌數題●雜報●皇太后陛下崩御外數件●雜錄●短篇百五噸の帆前船○夏の海濱○獨逸の快書生○少女(泡村子)●吾家の寶野山吹笛●遊學案內●江湖新發明一束雜外色々●面白草●孤?女?●面白い競爭●平川盛士●(影武者)◎新才文壇前江秋國○詩話○文林●前號考物答案考物等いろ〱●懸答者姓名●懸賞文募集あり●廣告

●毎月一回發行一部五錢郵稅五厘●半年前金卅二錢郵稅共に●一年前金六十錢(郵稅共に)●見本を要する人は郵券六錢送附あれ!

發行所　東京麴町區富士見町二丁目三十三番地　東光館

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

故若松賤子女史譯述

小公子

全一冊洋裝美本
頁數三百五十頁
正價金三十五錢
郵稅八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝこと數十回、一代の流行を左右して一時年少の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化し、德に隣あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作者を愛撫し、言行惣て甘露慈雨の如し、讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるゝを覺ゆ、何ぞ其の可憐高潔なるや。少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史曩に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を釋る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるゝこと切なり。即ち茲に其遺稿を收め、女史が一周忌日に會せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は字を題し、鄉友松井昇氏は挿畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元 東京日本橋區本町三丁目 博文館

大賣捌 東京麹町區下六番町六番地 女學雜誌社

社告

鈴木弘恭大人講述

百人一首講義

正價金廿八錢
郵稅四錢

布川靜淵、小此木秀野合著

俳諧史傳

定價二十七錢
郵稅四錢

巖本嘉志子

若松賤子英文集

正價六十錢
郵稅四錢

ベビー手みえん

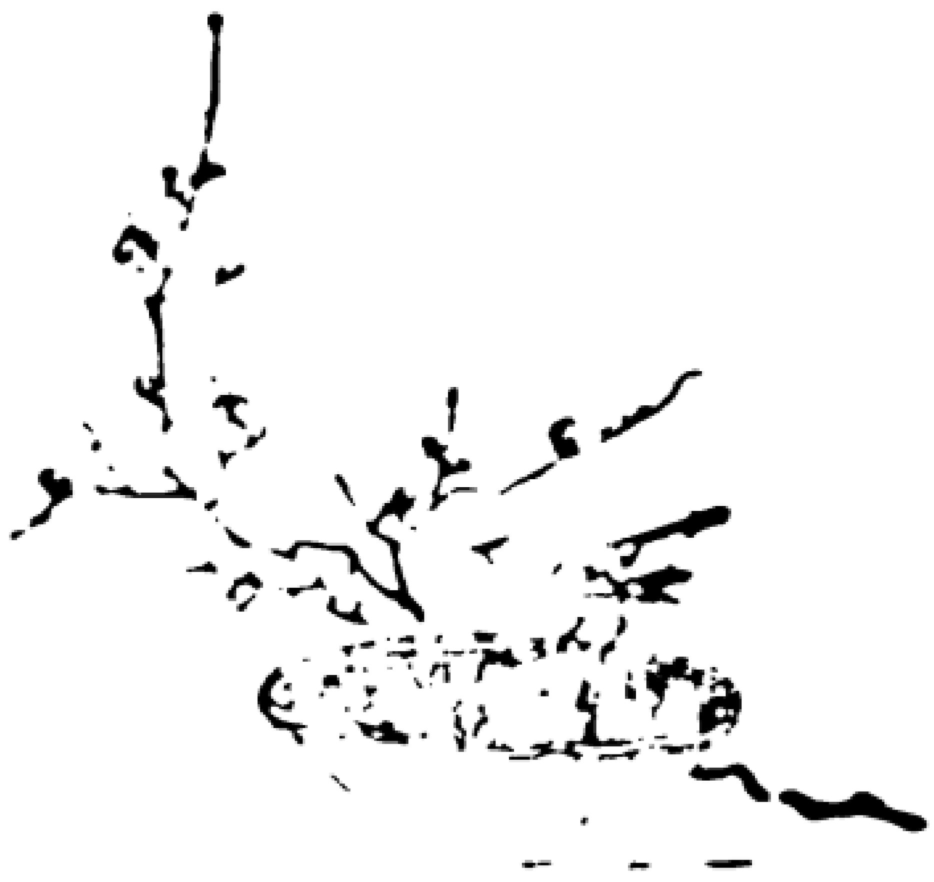
正價五圓

明治廿七年二月十四日内務省許可
明治三十年二月廿四日印刷
明治三十年二月廿五日發行

發行兼編輯者 東京市麹町區下六番町六番地 巖本善治
印刷者 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 根岸高光
發行所 東京市麹町區下六番町六番地 女學雜誌社
印刷所 東京市牛込區市谷加賀町二丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場 (電話十九番)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日逓信省認可



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY